



初學日本文典

物集高見著

全

木 2
4668



437
2
物集高見著

全二冊

初學日本文典

明治十一年
五月出版

出雲寺版



日本文典序

明治十一年八月六日
出雲寺版



文之有法出於天非人之所能
為也萬國皆有文法我邦奚獨
不然顧我邦在昔無有道文法
者非無法也特無法之名耳其
道文法者創於本居翁繼以中

初學日本文典序

初學文典 序
島菽原之徒而至物集氏父子
實集而大成之物集氏曰高世
鎮西之歌宗也家精於語學文
法長子高見來居東京弘修乃
父之業遇有疑義必質諸家庭
郵筒往復千里不絕故其所撰

淵涵而廣博精竅而簡明迺若
此編雖為初學而作然其闡幽
顯微條分縷折無復餘蘊較諸
世之或徒剽竊歐米文典拙撰
妄作以紊亂我天然固有之法
者豈可同日而語哉夫日日出

而燭火熄此編也一行於世坊
間所有文典文法諸書覆醬甑
者必不少矣

明治十有一年五月

南豐學人元田直識

西塾松井甲書



初學日本文典前編

○標目

上卷

文字論

音標字

母音

子音

鼻音

濁音

半濁音



五十連音

五十連音圖

拗音

反切

伸音

通音

音便

言語論

總括

體言

體言の種類

體言の數

體言の格

用言の種類

作用言の種類

活辞の種類

命令法

希求法

疑問法

崇敬法

活辭ノ時

活辭ノ轉變

活辭轉變表

四段活辭

四段再轉

下二段活辭

下二段再轉

變格活辭

形狀言

形狀言ノ轉變

體言ノ種類

體言ノ數

體言ノ格

用言

作用言

活辭ノ種類

命令法

希求法

疑問法

崇敬法

活辭ノ時

活辭ノ轉變

活辭轉變表

四段活辭

四段再轉

下二段活辭

下二段再轉

變格活辭

形狀言

形狀言ノ轉變

下卷

接辭

接辭ノ種類

體言ヲ兼ル接辭

作用言ヲ兼ル接辭

形狀言轉變表

形狀言ノ變化

くまくノ變化

單辭ノげ

形狀變格

形状言ヲ兼ル接辞

嘆辞

希求辞

命令辞

禁止辞

指示辞

現在辞

過去辞

將來辞

否不辞

疑辞

反辞

兩辞

分量辞

想像辞

決定辞

比准辞

助平辞

句頭接辞

一種接辞

崇敬辞

互尔乎波ノ調

互尔乎波ノ表



初學日本文典卷之上

豐後

物集高見
根本真苗

校著



文字論

音標字

日本ノ純粹正雅ナル言辞ヲ記スニ用フル正キ音標ノ文
字ハ其數五十二シテ平假字扁旁假字ノ二體アリ而ノ一
字必ズ一音アリテ西洋諸國ノ如ク數字ヲ配合シテ一音
ニ呼ブ類ニ非ズ乃チ平假字ハあいいうえお。かきくけこ。さ
まをせを。たちつてと。なにぬねの。はひふへほ。まみむめも。
やゆゆ江よ。らりるれろ。わお字急を。扁旁假字ハアイウエ

オ。カキクケコ。サシスセソ。タチツテト。ナニヌネノ。ハヒフ
ヘホ。マミムメモ。ヤレユイヨ。ラリルレロ。ワヰ予エヲ。トス
此中同音ノ如クシテ異ナル者三個アリ乃チ平假字ニテ
ハ。ハ。ト。ハ。ウ。ト。ウ。エ。ト。江。扁旁假字ニテハ。イ。ト。レ。ウ。ト。予。エ。
ト。衣。此。以。字。江。ト。于。衣。ノ三字ハ其音ノ單複輕重ニ因テ分
ル。者ナリ

此五十ノ音標字ヲ用テ呼ブ所ノ聲音ハ其數五十個ニシ
テ母音アリ子音アリ母音ハ子音ヲ生ズル聲ニシテ子音
ハ母音ニ因テ生ズル聲ナリ

母音日本母音

本真音



母音ト稱スル者ハ「あいうえお」ノ五個ニシテ其聲喉
ヨリ發シテ清朗單一ナルニ因リ「あ」^ア「い」^イ「う」^ウノ如ク
引テ呼ベド本音ノ外ニ出デズ故ニ又單音ト稱ス此聲ノ
變化ニ因テ生ズル所ノ四十五個ノ聲ヲ子音ト稱ス

子音

子音ト稱スル者ハ其數四十五個ニシテ二個ノ母音ノ相
重ナルト母音ト子音ノ相重ナルトニ因テ成ル者トス是
ヲ以テ其聲音單純ナラズ「か^ア」^カ「き^イ」^キノ如ク引テ呼
ベバ皆韻ニ母音ヲ出ス故ニ又複音ト稱ス
母音ト相重ナル所ノ子音ニ七個ノ原音アリク^カス^クツ^ツ又^ケフ^フ

ムルト云フ其聲隱微ニシテ未ダ全ク明ナラザル者トス
 今假ニ此隱微ナル聲音ノ記標ニ扁旁假字ノク^カスツ^タスフ
 ハルヲ用ヒテ母音トノ結合ヲ説カバ先ヅク^クト母音ト重
 リテ「かきくけこ」ノ五音成リスト母音ト重リテ「さ
 志^セせそ」ノ五音成リツ^ツト母音ト重リテ「たちつてと
 」ノ五音成リヌ^ヌト母音ト重リテ「なにぬねの」ノ五音
 成リフ^フト母音ト重リテ「はひふへほ」ノ五音成リム^ム
 母音ト重リテ「まみむめも」ノ五音成リル^ルト母音ト重
 リテ「らりるれろ」ノ五音成ルガ如シ而シテ其結合スル
 形ハ

ク^クトあ^アト重リテか^カヲ生ジク^クトハ^ハト重リテき^キヲ生ジク^ク
 ト^トう^ウト重リテく^クヲ生ジク^クトエ^エト重リテけ^ケヲ生ジク^クトお^オ
 ト重リテこ^コヲ生ジテ「かきくけこ」成ル是ヲ加行ノ
 五音トス此聲ハ牙ヲ用テ呼ブ故ニ牙音ト稱ス
 ス^ストあ^アト重リテさ^サヲ生ジスト^トい^イト重リテ去^クヲ生ジス
 ト^トう^ウト重リテむ^ムヲ生ジスト^トえ^エト重リテせ^セヲ生ジスト
 お^オト重リテそ^ソヲ生ジテ「さ志^セせそ」成ル是ヲ佐行
 ノ五音トス此聲ハ齶ヲ用テ呼ブ故ニ齶音ト稱ス
 ツ^ツトあ^アト重リテた^タヲ生ジツ^ツト^トべ^ベト重リテち^チヲ生ジツ^ツ
 ト^トう^ウト重リテつ^ツヲ生ジツ^ツト^トえ^エト重リテて^テヲ生ジツ^ツト

お。ト重リテと。ヲ生ジテ「たろつてと」成ル是ヲ多行
 ノ五音トス此聲ハ舌ヲ用テ呼ブ故ニ舌音ト稱ス
 又トあ。ト重リテな。ヲ生ジヌト。ト重リテに。ヲ生ジヌ
 ト。ト重リテぬ。ヲ生ジヌト。ト重リテね。ヲ生ジヌト
 お。ト重リテの。ヲ生ジテ「なにぬねの」成ル是ヲ奈行
 ノ五音トス此聲ハ舌ヲ用テ呼ブ故ニ舌音ト稱ス
 フトあ。ト重リテは。ヲ生ジフト。ト重リテひ。ヲ生ジフ
 ト。ト重リテふ。ヲ生ジフト。ト重リテへ。ヲ生ジフト
 お。ト重リテほ。ヲ生ジテ「はひふへほ」成ル是ヲ波行
 ノ五音トス此聲ハ脣ヲ用テ呼ブ故ニ脣音ト稱ス

ムトあ。ト重リテま。ヲ生ジムト。ト重リテみ。ヲ生ジム
 ト。ト重リテむ。ヲ生ジムト。ト重リテめ。ヲ生ジムト
 お。ト重リテも。ヲ生ジテ「まみむめも」成ル是ヲ麻行
 ノ五音トス此聲ハ脣ヲ用テ呼ブ故ニ脣音ト稱ス
 ルトあ。ト重リテら。ヲ生ジルト。ト重リテり。ヲ生ジル
 ト。ト重リテる。ヲ生ジルト。ト重リテれ。ヲ生ジルト。お。
 ト重リテろ。ヲ生ジテ「らりるれろ」成ル是ヲ良行ノ
 五音トス此聲ハ舌ヲ用テ呼ブ故ニ舌音ト稱ス
 母音ノ相重リテ生スル所ノ子音ハ「やゆ江よ」わを
 字を「ノ十音トス」やゆ江よハ母音ノイノ五個

不... 卷一

ノ母音ト重ルニ成リ「わゐうゑを」ハ母音ノウノ五個
ノ母音ト重ナルニ成ル其重ナル形ハ

イトあト重リテやヲ生ジイトハト重リテハヲ生ジイ

トウト重リテウヲ生ジイトエト重リテ江ヲ生ジイト

おト重リテヨヲ生ジテ「やいゆ江よ」成ル是ヲ也行

ノ五音トス此聲ハ母音ト同ク喉ヨリ發ス故ニ喉音ト

ス

ウトあト重リテホヲ生ジウトハト重リテおヲ生ジウ

トウト重リテウヲ生ジウトエト重リテゑヲ生ジウト

おト重リテをヲトジテ「わゐうゑを」成ル是ヲ和行

ノ五音トス此聲ハ母音ト同ク喉ヨリ發ス故ニ喉音ト
稱ス

或説ニ喉音也母音及行和行ノ外ハ七行ハ二音重ナラズシ

テ皆單行ナル者ナリ故ニ七行ノ子音各其七行ノ子

音ト重ナル片ハ二音ニ分ル、明ナル拗音ニシテ一

音ニ約マルトナシト云ヘレド七行ハ固ヨリ子音ト

子音ノ重ナル者ニ非ズシテ子音ノ母音ト重ナル者

ナリ若シ然ラズトセバ七行三十五個ノ音ヲ長聲ニ

呼ブ片韻ニ盡ク母音ヲ生ズル者ハ抑何等ノ原因ア

リテ然ルカ是レ七行モ亦單行ナラザル明證ナル可

刀... 卷一

鼻音

五十音ノ外ニ撥ル聲アリ是ヲ鼻音ト云フ此音標ニハ平假字ニハハ。ヲ用ヒ片假字ニハハ。ヲ用フ抑五十音ハ口ノ正音ナルニ因リ口ヲ閉レバ一音モ發スルヲ能ザルヲ獨リ鼻音ハ全ク口ノ正音ニ非ザルヲ以テ口ヲ閉テ呼ブモ猶其聲ヲ發シ得ベシ此聲ハ本ト麻行第三音ノむ。ノ變音ナルヲ以テ今人ト云フ可キヲ上古ハ必ズむ。ト呼ブ汝ヲ或ハに。い。の。等。ニ。モ。呼。べ。ル。者。ア。リ。蘭ハ。必。ズ。む。ト。呼。ブ。近衛。ヲ。面。目。ヲ。め。い。或說ニハハ。ハ平假字ノハ。ハ變體ナリト云ヘリ然レモ已ニ一個

音ト成タレバ復タむヲ推テ人ト同一ニハ説ク可ラザル者アリ譬ヘバむ。ハ長聲ニ呼ビ短聲ニ呼ブモ自在ナレハ人ニ至テハ長聲ニハ呼ブ可ク短聲ニハ呼ブ可ラズむ。ハ句頭ニ置ク可ク人ハ句頭ニ置ク可ラズん。ハ音便ニ呼ブ可クむ。ハ音便ニ呼ブ可ラザルガ如シ音便ニ呼ブヨムハとど我。家。ヲ。ア。ハ。シ。等。ヲ。地。ヲ。む。の。お。と。ど。レ。在。メ。ハ。ヲあ。め。る。レ。ノ。如。シ。此。等。ヲ。地。ヲ。む。の。お。と。ど。レ。在。メ。ハ。ヘ何。ナル。カ。モ。辨。フ。可。ラ。ズ。漢。籍。讀。ミ。ノ。音。便。ニ。至。テ。ハ。辭。義。ノ如何ナルカモ辨フ可ラズ漢籍讀ミノ音便ニ至テハ辭義ニ是者アリ甚故ニんハむノ變音ニテむノ次ニ位スル一個ノ音トス濁音

子音ノ中加行佐行多行波行ノ四行ニ濁音アリ此聲ヲ記
ス可キ文字無キヲ以テ各其行ノ清音ノ記標字ニニ点ヲ
加ヘテ其識トス

加	行	か	ぎ	く	け	こ
佐	行	さ	ま	む	ぜ	ぞ
多	行	た	ぢ	づ	で	ど
波	行	ば	び	ぶ	べ	ぼ

此聲ハ本ト四行ノ變音ニシテ日本ノ正音ニ非ズ是ヲ以
テ古來一音ノ言辞ニ於テハ濁リテ呼ブ者アルヲナシ音ニ
三音連合便ニシル今論ズル者ト異ナリ故ニ各其行ノ

清音中ニ攝シテ別ニ其行ヲ立テズ

半濁音

子音ノ中波行ニ清濁ノ間ノ音アリ是ヲ半濁音ト名ク此
聲ヲ記ス可キ文字モ亦無キヲ以テ其行ノ清音ノ記標字
ニ圈点ヲ加ヘテ其識トス

波	行	は	ひ	ふ	へ	ほ
---	---	---	---	---	---	---

半濁音ハ濁音ヲ呼ブ如クニ脣ヲ彈テ清音ニ呼ブ即チハ
ハ烟波ノ波ノ如クハハ尊鼻ノ鼻ノ如シ
此半濁音モ亦是レ日本ノ正音ニ非ザルヲ以テ古書ハ更
ナリ近世ニ於テモ多クハ口語上ニ在ルヲ以テ別ニ其行

ヲ立スシテ其行ノ清音中ニ攝ス

五十連音

母音子音ヲ連タル圖ヲ五十連音圖ト云フ此圖ハ豎ノ五
 字ヲ音トシ横ノ十字ヲ韻トス豎ノ五字ハ阿行^あイ^いウ^うエ^えオ^お加
 行^かけ^けき^きく^く佐行^させ^せそ^そ多行^たた^たち^ち奈行^なね^ねの^の波行^はは^はひ^ひふ
 麻行^まめ^めみ^みむ也^也行^やや^やい^いゆ^ゆ良行^らら^らり^り和行^わわ^わを^をウ^ウニシテ横
 ノ十字ハ第一韻ハ「あかさたなはまやらわ」第二韻ハ
 「いきまちにひみりお」第三韻ハ「うくもつぬふむ
 ゆるず」第四韻ハ「えけせてねへめ江れる」第五韻ハ
 「おこそとのほもよろを」トス而ノ此五十ノ音韻ハ縦

横ニ通ジ萬變ニ應ズルモ各其格ニ從テ混亂錯雜スル
 ナシ往クノゆかゆきゆくゆけト變動シ還ヘルノかへら
 かへりかへるかへれト變動スル類ノ如キモ各其同音中
 ノ變化ニ止テ他音ニ及ブ^レ無シ^ル往ク^ル還ヘル^ルカ^カへ^へら^らせ^せら^らる^る者^者ト活用スルハ「あれ」ヲ「われ」^レ「うつり」^リ
 今論ズル者ト異ナリハ「あれ」ヲ「われ」^レ「うつり」^リ
 ヲ「ゆつり」^リ「みだれ」^レヲ「みたえ」^レ「志のぼる」^ルヲ「ま
 のばゆ」^ルト呼ブモ亦同韻中ノ轉ジニ因ル

五十連音圖

阿行 音喉
加行 音牙

あ	い	う	え	お
か	き	く	け	こ
あ	い	う	え	お
か	き	く	け	こ

ナル聲ニテ母音ヲ除ケバ獨立スルヲ得可ラザル者ナレ
バ純粹單一ニシテ衆音ヲ總括ス可キ母音ノ相重ナレ
也行和行ノ二行者トハ同ジ中世已來支那ノ字音ヲ呼ブニ
ク論ズ可ラザル者トス
至テ此聲ヲ用ヒ又此聲ヲ記スニハ其連ネタル音標字ヲ
憑據トシテ字音ノ假字ヲ正スホヲモめ火ヲくわト記シ
ザル如キ字音ノ假字然レモ尚ホ約メテ直音ト為ス可キ
ノ法モ亦此ニ基ク
者ハ是ヲ直音ニ呼ブアリ酒須ハ拗音ノ志ゆナルヲ直
音ノ志ニ呼ビ初所ハ拗音ノ志よナルヲ直音ノ志ニ呼ブ
而ノ反テ直音ヲ曲テ拗音ニ呼ビ倣スハ古今其例アル
ナシ

反切

二音ヲ約メテ一音ニ呼ブヲ反切ト云フ反切ハ連聲ノ便
ニ因テ二音ノ自然ニ一音ニ歸スル者ナリ然レモ音韻相
通ノ正則ニ升フナシ
反切スル所ノ二音ハ上ヲ父位トシ下ヲ母位トス父母同
音中ニ在ル者ハ母位ニ歸シ父母同韻中ニ在ル者ハ父位
ニ歸ス是ヲ豎ハ末ニ留リ横ハ本ニ歸スト云フ
母位同父位母位同音中ニ在ル者
父位同音中ニ在ル者
か き け け け け
母位 父位
父位母位同韻中ニ在ル者

奈行ニ在ル者ハぬ。ヲナク濇マヲキ見ミヲ知ヲヲ

類ノ如シ

波行ニ在ル者ハふ。ヲハクハハ宣シヲハのノたタヲハ

ノ類ノ如シ

麻行ニ在ル者ハむ。ヲミ告コヲミフフムムフフ見ミヲハ

類ノ如シ

良行ニ在ル者ハる。ヲラルルルルルルルルルル

類ノ如シ

通音

音韻ノ變化ハ究極ナシト雖モ五十連音ノ正音ニ於テハ

豎ノ音ノ横ニ曲カリ横ノ韻ノ豎ニ拗カレテ溷雜紆曲ノ聲ヲ

生ズルヲナク豎ノ音ハ豎ノ音ト通ジ横ノ韻ハ横ノ韻ト

通ジテ其例格ヲ亂ルヲ無キ者ハ盖我國ノ音聲ノ妙用ナ

リ今古書ニ徴シテ同音相通ジ同韻相通ゼシ最奇ナル一

例ヲ示ス格故ニ違フニ奇ナル者ヲ普通ナル者ハ其奇ナル者モ

ナケルバ

同音相通ノ例

阿行 お。も あも お。ト あト

加行 わ。が。 わご が。ト ごト

佐行 よ。そ。れ よされ そ。ト さト

音便

音便ニ五種アリ。イト呼ビ。ウト呼ビ。ント呼ビ。又急促ル聲ニ呼ビ。波行ノ半濁音ニ呼ブ。本此聲ハ支那ノ字音ヲ呼ビ。馴シヨリ移レル者ニテ日本ノ正音ニ非ズ。是ヲ以テ上古ニ在テハ五十音ノ正音ノ外ニ音便ノ如キ者ナカリシヲ中古以降漢語ヨリ慣用シ來テ雅言ト稱スル者ノ中ニモ亦多ク此聲ヲ呼ブ。故ニ五十音相通ノ正格ニハ異ナル所アリト雖モ然レモ亦自ラ慣例ノ如キ者アリテ音韻ヲ紆曲スルヲナシ。今此五種ヲ各條ニ分テ其例ヲ示ス。

○イト云フ音便

去ヲ長ク引テ韻ヲイニ呼ブ者。一詩歌ヲイカ。四時ヲい。お。他音ヲいニ變ジテ呼ブ者。右いきさい。幸いさいいはいひい。ぎいニ呼ブ。朝いあいたい。響いもいていない。おいニ呼ブ。○いト云フ音便。他音ニいヲ添テ呼ブ者。夫婦いふいふ。八日いやいういか。他音ヲいニ變ジテ呼ブ者。冊子いきいういま。藁鳥いわいらいういづ。

は。ヲ。う。ニ。呼。ブ	は。ヲ。う。ニ。呼。ブ	ひ。ヲ。う。ニ。呼。ブ	ふ。ヲ。う。ニ。呼。ブ	へ。ヲ。う。ニ。呼。ブ	ほ。ヲ。う。ニ。呼。ブ	ま。ヲ。う。ニ。呼。ブ	み。ヲ。う。ニ。呼。ブ	む。ヲ。う。ニ。呼。ブ	り。ヲ。う。ニ。呼。ブ
第ヲはうき	眞人ヲまうと	法師ヲほうま	卿ヲまうちぎみ	直衣ヲなうま	給リヲたうばり	上野ヲかうづけ	日向ヲひうが	取出ヲとうで	う。ハ。音。便。ハ。二。語。ノ。間。ニ。介。リ。テ。一。語。ノ。如。ク。聞。ユ。ル
吹革ヲふいがう	首ヲおうと	仕奉ヲつかうまつる	直會ヲなうらひ	小路ヲこうぢ	候ヲさうらふ				

女者アリ弟ヲ「おと」と妹ヲ「いも」とノ類
 ナリ又作用言ノ活辞ノ「ひ」ヲモ「う」ニ呼ブ「賜」ノケ
 リ「ヲ」ヲ「た」まう「けり」思而「ヲ」おもうてノ類
 〇「ん」ト云フ音便
 他音ニ「ん」ヲ添テ呼ブ者 假殿ヲさんまき不者ヲむんば
 眞字ヲまんな
 他音ヲ「ん」ニ變ジテ呼ブ者 丹波ヲたんは 如何ヲいかん
 に「ん」ニ呼ブ 結垣ヲきんかい 砧ヲきんた
 ぬ「ん」ニ呼ブ 童部ヲわらんべ
 は「ん」ニ呼ブ

ひ。ヲ。ん。ニ。呼。ブ。築。土。ヲ。つ。い。ん。ち。慮。ヲ。お。も。ん。は。か。る。

ほ。ヲ。ん。ニ。呼。ブ。殆。ヲ。ほ。と。ん。ど。筆。ヲ。ふ。ん。で。

み。ヲ。ん。ニ。呼。ブ。筭。ヲ。か。ん。ざ。ま。筆。ヲ。ふ。ん。で。

む。ヲ。ん。ニ。呼。ブ。汝。ヲ。な。ん。ぢ。譽。田。ヲ。ほ。ん。だ。

も。ヲ。ん。ニ。呼。ブ。懇。ヲ。ね。ん。ご。ろ。件。ヲ。く。だ。ん。

り。ヲ。ん。ニ。呼。ブ。假。字。ヲ。か。ん。な。件。ヲ。く。だ。ん。

る。ヲ。ん。ニ。呼。ブ。夜。御。殿。ヲ。よ。ん。の。お。と。ど。

有。ベ。シ。ヲ。あ。ん。べ。ま。

ん。ヲ。省。キ。テ。呼。ザ。ル。者。案。内。ヲ。あ。な。い。

文字。ヲ。も。お。本。意。ヲ。ほ。い。案。内。ヲ。あ。な。い。

念佛。ヲ。ね。ぶ。つ。半。精。進。ヲ。さ。う。ぞ。冠。者。ヲ。く。わ。せ。

他。音。ヲ。う。或。ハ。ん。ニ。呼。ブ。音。便。

姫。ヲ。お。う。な。お。ん。な。

女。ヲ。を。う。な。を。ん。な。

巫。ヲ。か。う。な。ぎ。か。ん。な。ぎ。

商人。ヲ。あ。き。う。と。あ。き。ん。ど。

頭。殿。ヲ。か。う。の。と。の。か。ん。の。と。の。

仕。奉。ヲ。つ。か。う。ま。つ。る。つ。か。ん。ま。つ。る。

○急。促。ル。聲。ニ。呼。ブ。音。便。

全。ヲ。ま。う。つ。た。く。訟。ヲ。う。つ。た。へ。最。ヲ。も。う。つ。と。も。

何^{アハレ}怜^レヲ^ハあ^ハッ^レば^レ 服^{ハツ}部^リヲ^ハは^ハッ^レと^リ

音便ノ^ウヲ^急促^テ呼^ブ 夫^ヲを^ハッ^レと

追^オ而^アヲ^あッ^レて 真^マ人^トヲ^まッ^レと

從^シ而^テヲ^また^がッ^レて

不^フヲ^急促^テ呼^ブ 貴^タヲ^たッ^レと^ま 新^ニ田^タヲ^にッ^レた

ち^ヲ急^ツ促^テ呼^ブ 以^モ而^テヲ^もッ^レて 立^タ而^テヲ^たッ^レて

つ^ヲ急^ツ促^テ呼^ブ 奴^ヌヲ^やッ^レこ

り^ヲ急^ツ促^テ呼^ブ 欲^ホヲ^ほッ^レと^ま 則^スヲ^のッ^レと^る

○波行ノ半濁音ニ呼ブ音便

促^セ呼^フノ下ニ在ル者も^ハッ^レば^レ あ^ハッ^レば^レ

字音ヲ呼ブ者 に^ハッ^レば^レん 日本 反^ハ哺

此半濁音ニ呼ブ音便ハ支那ノ字音ニ多クシテ日本ノ言辭ニ於テハ急^ツ促^ル音ノ下ト撥^ハル音ノ下ト

言語論 括

文章ヲ綴属スル言辭ハ分殊ノ性質アル者ニシテ各異ノ名ヲ冒セル者ナリ故ニ西洋諸國ニ於テハ或ハ八品種ニ分チ或ハ十品種ニ分ツ然レモ其國土ノ風ニ因リ其言語

ノ體ニ因リ亦自ラ少差ナキヲ能ハズ日本ノ言語ノ如キ
モ上古ノ正シキ用法ニ基キ之ヲ論ズルハ乃チ左ノ如
シ
凡百ノ事物ニ於テ其形體ノ有無ヲ撰バズ之ヲ呼ブ言語
ニ轉變ノ活用無キ者ハ総稱シテ體言ト名ク體言中鳥獸
草木ノ類其物體アル者ハ之ニ實體言ノ名ヲ命ジ功績節
操ノ類其作業ノ一個ノ形ニ觀ルベキ者ハ之ニ虚體言ノ
名ヲ命ジ遊戯嬉樂ノ類作用形状ノ轉變ヨリ生ズル者ハ
之ニ假體言ノ名ヲ命ジ我汝彼ノ類物名ニ代換スル短辞
ハ之ニ代名言ノ名ヲ命ズ

體言ヲ以テ名ケタル事物即チ鳥獸草木等ノ動作形容ヲ
呼ブ言辞ニ活用アル者ハ総稱シテ用言ト名ク用言中事
物ノ動作ヲ呼ブ者ニハ之ニ作用言ノ名ヲ命ジ事物ノ形
容ヲ呼ブ者ニハ之ヲ形状言ノ名ヲ命ズ
體言或ハ用言ニ接續シテ其意義ヲ達行セシムル媒介ニ
用フル短辞ヲ接辞ト名ク接辞中ニモ亦嘆辞希求辞命令
辞禁止辞指示辞現在辞過去辞將來辞否不辭疑辭反辭兩
辭分量辭想像辭決定辭比准辭助辭句頭接辭一種接辭崇
敬辭ノ名ヲ命ズ可キ者アリ
體言ヲ以テ名ケタル人獸事物ノ百般ノ動作ヲ呼ブニハ

作用言ヲ用ヒ其性質形容ヲ呼ブニハ形状言ヲ用フ又感
慨ヲ呼ブニハ嘆辭ヲ用ヒ命令ト願望トヲ示スニハ命令
希求ノ二辭ヲ用ヒ時刻ヲ見スニハ過去辭ト將來辭トヲ
用ヒ疑訝ヲ呼ビ分量ヲ示スニハ疑辭ト分量辭トヲ用ヒ
想像ヲ談リ崇敬ヲ示スニハ想像崇敬ノ二辭ヲ用フ
此論說ヲ以テスレバ日本ノ文章ニ用フル言辭ハ之ヲ次
條ノ三品種ニ總括シ得ベシ

第一體 言

第二體 言

第三體 言

右ニ擧タル體言用言接辭ハ次序ヲ追テ各別ニ之ヲ論辨
ス可シ

體言

體言ハ形體ノ有無ヲ撰バズ其呼ブ言辭ニ轉變ノ活用無
キ者ハ總ベテ此中ノ辭トス而シテ其形體ノ有無及ビ成立
ノ原因ニ基テ實體「ひと」虚體「こころ」假體「ぬぶ
り」代名「われ」ノ四種ニ分ツ

體言ハ活用無キ辭類ヲ總稱スルヲ以テ一句ト成レル辭
及ビ熟辭漢語ノ如キモ此辭中ニ収ムルヲ得ベシ即チ
一句ト成レル辭ハ「男子のこ」「豚のこ」「をの山」「わ津つ

「み」海「こ」兄「かみ」顯「あきつ」神「かみ」ノ如ク熟辞ハ「みま」御簾「み
衣」そ「と」小「た」小「を」小「ま」ノ如ク漢語ハ「とうぐう」東宮「な」内「ま」侍
「に」女「ま」婦「ゆ」病者「ざ」ノ如シ

實體言

實體言ハ「ひと」人「と」鳥「くさ」草「いま」石等ノ類真個ノ

物體アル者ハ皆此中ノ辞トス

虚體言

虚體言ハ真個ノ物體ナシト雖モ想像中ニ摸生シ形體
アルガ如キ觀ヲ為ス者ハ皆此中ノ辞トス即チ「たま」靈
「ゆめ」夢「こころ」心「うつつろ」虚ノ如シ而メ形容ヲ示ス者

時及ビ數ヲ呼ズ者或ハ業作ヲ一個ノ事ニ成タル者モ

亦此辞中ニ収メ即チ形容ヲ示ス者ハ「あか」赤「あを」青

まづか「ゆたか」豊「あさ」朝「ゆふ」夕ノ如ク數ヲ呼ズ者ハ「ひと」人「ふた」二

「み」三「よ」四「い」五「つ」六「む」七「ゆ」十「ち」千「ぢ」萬ノ如ク業作ノ

一個ノ事ニ成タル者ハ「あや」禮「たび」旅ノ如シ又人ノ

笑フ聲ノ「むむ」禮「ねうねう」旅「雛ノ鳴

聲」ねうねう「ひよひよ」雛ノ鳴「ちち」風ノ吹

ク音」ちち「そんそん」木葉ノ落ル「はら」物

「はら」物「からから」等ハ本ト其物ノ聲ト

「はら」物「からから」等ハ本ト其物ノ聲ト

音トニシテ上ニ舉ル所ノ者トハ全ク其類ヲ同クセズ
ト雖モ常ニ兩辞ノトニ係リテ説話ニ用フルヲ以テ亦
此辞中ニ収ム

假體言

假體言ハ用言ノ轉變スル格ニ因テ假ニ實體言ト其用
ヲ同クスル者ヲ云フ即チ「ひかり」「こほり」「をまへ
なりはま」とほさ「ちかさ」「さびまき」「うれまき」
ノ如シ然レド實體言ヲ兼ル所ノ各種ノ接辞ニ於テ或
ハ之ヲ兼ザル者アリ下條ニ詳ナリ蓋假體ハ本ト用言ヨリ生
ジテ體言ノ用ヲ為スモ其性質全ク實體ト同ジキニ非

ガレバ亦自ラ少差ナキヲ免レザル者ナリ

漢語ノ裝束學問修行孝養等モ作用第一變格ノ爲おせお

ニ係リテ活用スル者ハ亦皆此假體中ノ辞トス

代名言ハ行文中物名ノ毎回反復シテ混亂スベキヲ防

グ爲ニ事物ノ名ニ代換ス可キ簡約ニシテ照應ニ使ナ

ラシムルニ用フル短辞ヲ云フ而ノ短辞ノ中人名ニ代

テ呼ブト他ノ事物ノ名ニ代テ其事物ヲ指稱スルニ用

フルトノ二類アリ人名ニ代テ呼ブ者ハ説話ヲ爲ス人

ト説話ニ對スル人ト説話ニ罹ル人トノ三人ニテ説話

ヲ為ス人ノ自ラ其名ニ代テ呼ブラ一入稱トシ説話ニ
對スル人名ニ代テ呼ブラ二人稱トシ説話ニ罹ル人名
ニ代テ呼ブラ三人稱トス

一人稱

我

わ

われ

われ

二人稱

我

われ

われ

われ

三人稱

彼

かれ

かれ

かれ

他ノ事物ノ名ニ代テ其事物ヲ指稱スルニ用フル者ハ
順序ニ因テ是ヲ三等ニ分ツ直ニ其事物ヲ指スヲ第一
等トシ次ノ事物ヲ指スヲ第二等トシ又次ノ事物ヲ指
スヲ第三等トス

第一等

此

これ

これ

これ

第二等

其

それ

それ

それ

第三等

彼

あれ

あれ

あれ

是順序ニ因テ論ズル并ハ又遠近親疎ノ反對ヲモ分チ
得ベシ即チ「川の水は。此は方は。其は方は。」山のこのもか。後の面もシ
ノ如キこなたこのもハ近クシテ親シクを。此は方は。其は方は。後の面もシ
ハ遠クシテ疎キガ如シ
合體言
二個ノ體言ヲ合併シテ一辭ニ呼ブラ合體言ト云フ此
言ハ多クハ體言ヲ第二格ヲ見ス可キ接辭ヲ省テ呼ブ

連聲ノ便ニ因リニ第二語ノ上ヲ濁音ニ變ズ即チ是硯の
 箱 箱のはこヲ「もむりばこ」もみぢの業はヲ「もみぢば
 山 山やまのかはヲ「やまがは」たに谷のかはヲ「たにが
 は」ノ如シ而メ實體ト虚體ト合スル者アリ虚體ト假
 體ト合スル者アリ實體ト虚體ト合スルハ「あま雨よ夜レ
 「つき月よ夜」あき秋ぎ霧り「たび湖び人と」虚體ト假體ト合ス
 ルハ「あさ朝が霧り」ゆふ夕な和ぎ「ひる午ね」よ夜だ夜ち發」ノ如
 シ又二辞ヲ合併スル上ノ辞尾ヲ變ズル者アリふねの
 ひとヲ「ふなびと」よ米ねのむ虫えヲ「よなむま」ノ如
 ク又略スル者アリふみ文のはこ箱ヲ「ふ文ば文こ」ふみ文のつ

くまヲ「ふぶくま」ノ如シ

體言ノ數

體言ニ單復二數ノ稱呼アリ單稱ハ單一ナル事物ヲ呼
 ブ即チ「ちち」はは「をまへ」なりひ君ノ如ク複數
 ハ尚ホ其類アルベキ事物ヲ呼ブ即チ「ちち父だ母ち」は
 は等だ等ち等「をまへ教など」なりひ習あ等ど等ノ如シ而メ體言
 ノ尾ニ附テ複數ニ呼ブ可キ辞ハ「たち」等とも等「ま等だ等
 「ら」等ナリ然レモ其辞ハ體言ノ種類ニ因テ附ク
 キ者ト附ク可ラザル者トノ二個アリ今左ニ單復二數
 ヲ掲テ其例ヲ示ス

言實體單稱

お親や

言實體複稱

おやだち等

こ兒

こ兒、ども等

つ妻

つまなど

むをぬ女

むすめら女等

言虛體單稱

言虛體複稱

は春

はる、ども等

あ秋

あきなど

言假體單稱

言假體複稱

うたひ詔

うたひ、ども等

言代名單稱

ま舞ひ

ま舞ひ、など

わ我

われ、ども等

な汝れ

なれ、だち等

なむ汝ぢ

なむぢ、など

か彼れ

かれ、等

こ此れ

これ、ども等

そ其れ

それ、など

あ彼れ

あれ、等

右ノ如ク各種ノ體言ニ於テモ必ず一物一事ノ觀ヲ爲

スレ能ザル者ハ複數ノ辞ヲ附ク可ラズ殊ニ「たち」
ノ如キハ人類ノ名ヲ呼ブ辞尾ニ局ル者トス

體言ノ格

體言ヲ兼ル所ノ接辞ニ因テ其體言ノ他辞ニ関涉シ或
ハ互ニ係累スル變態ヲ現スヲ格ト名ク此格ヲ區別シ
テ第一格第二格第三格第四格獨立格ノ五個トス
第一格ハ 他ニ係累スルノ無ク文主ト成テ句頭ニ見
ル、格ヲ云フ此格ニハ能動受動自動被役動ノ活辞ヲ
記シ又状態ヲ記ス即チ「父の談る」「母の呼ぶ」「馬の
騎らるる」「兵士の騎せらるる」「心の敏き」「心の赤き

「水の融くる」「光の映る」人如シ而シテ體言ヲ兼テ此
格ヲ見ス所ノ接辞ハはものかどやかそ其接辞
ノ格ハ皆連用トス又此接辞ヲ省クトアリ「父談る」
母呼ぶ」ノ如シヤ」示スニ用フ即チ
第二格ハ 體言ノ互ニ相関係スルヲ示スニ用フ即チ
「花の盛り」「神の世」「里の人」「人の心」人如シ而シ
體言ヲ兼テ此格ヲ見ス所ノ接辞ハのがニテ其接辞ヲ
格ハ共ニ連體トス又第二格ニ於テ接辞ヲ除ケバ合體
言ニ變ズルトアリ即チ「はなざかり」「かみよ」「さと
び」と「ひとごとろ」ノ如シ

第三格ハ 作業ノ標的ヲ示スニ用フ故ニ又此格ニハ
 與奪ヲ受ル所ノ事物ヲ安置ス即チ「父は子に教ふ」
 「女は母に習ふ」鳥は花に囀る「虫は叢に鳴く」
 女トハ父母ノ教ヲ受ル者ニシテ花ト業ノ如シ而シテ
 トハ鳥ト虫トノ作業ノ見ル處ナリ業ノ如シ而シテ
 言ヲ兼テ此格ヲ見ス所ノ接辞ハハニテ其接辞ノ格
 ハ共ニ連用トス又稀ニ此接辞ヲ省クトアリ用
 第四格ハ 活辞ヲ以テ示ス所ノ作業ノ直ニ及達スル
 事物ヲ見スニ用フ即チ「書を讀む」字と書く「月を
 観る」花を折る」ハ如シ而シテ體言ヲ兼テ此格ヲ見ス
 接辞ハハ其格連用ナリトス又此接辞ヲ省クトアリ

「書讀む」「字書く」ハ如シ
 獨立格ハ命令ヲ受ル所ノ事物ノ句頭ニ見ル格ヲ
 云フ即チ「童子書讀む」「童子馬に騎れ」ハ如シ
 用言ハ事物百般ノ動作ト形容トヲ云フ者トス而シテ用言
 中其動作ヲ呼ブ者ヲ作用言トシ其形容ヲ呼ブ者ヲ形状
 言トス
 作用言ハ事物百般ノ動作ヲ呼ブ所ノ活辞トス「雪ふ
 る」「月てる」「花さく」「風ふく」ノふるてるさくふく

ノ如シ蓋活辞ハ動作ヲ為ス者ヲ除ケバ一モ之ガ作用
ノ考察ヲ為スヲ能ザルヲ以テ獨リ人類ノミナラズ天
地間凡百ノ事物モ亦各其動作アル者ニ觀テ之ヲ論
ザル可ラズ故ニ事物ノ動作ヲ云フニ先ヅ種類ヲ分
其屬スル所ノ諸法ヲ示ス

活辞ノ種類

活辞ハ動作ヲ呼ブ辞ニテ其中自ラ種類ノ分ル可キ者
五個アリ他ニ向テ動作ヲ與ヌル者ヲ能動ト稱ヒ他ヨ
リ受テ動作ヲ起ス者ヲ受動ト稱ヒ能動受動ノ中間ニ
在テ獨立ヲ為ス者ヲ自動ト稱ヒ他ヲ使役シテ動作ヲ

起サシムル者ヲ役動ト稱ヒ他ノ使役ヲ受テ動作ヲ起
ス者ヲ被役動ト稱フ而ノ此五個ノ活辞ハ皆其轉變ノ
法ニ成ル者ナリ

能動活辞

能動活辞ハ為ス所ノ動作ヲ他物ニ向テ與フル活辞ヲ
稱フ故ニ其上ニ必ズ第四格ヲ領ズ即チ「童子犬を」
「婦人兒を」ノ「を」ノ如キモ「擊ル」
所ノ者ト抱ク所ノ者トヲ知り得ルニ非ザレバ其動作
ハ未ダ那邊ニ在ルカヲ明瞭ニ為スヲ能ハザルヲ以テ
受動活辞ニ對スル作用ヲ云フ辞類トス

受動活辞

受動活辞ハ動作ヲ為ス可キ物體ノ其動作ヲ他ヨリ受テ起ス活辞ヲ稱フ故ニ其上ニ必ず第三格ヲ領ズ即チ「犬童子にうたると」被撃る「兒婦人にいだかる」被抱る「ノうたると」被抱る「だかる」ノ如キモ撃ツ所ノ人ト抱ク所ノ人トヲ知り得ルニ非ザレバ其動作ハ未ダ那邊ニ在ルカヲ明瞭ニ為ス「能ハザルヲ以テ能動活辞ニ對スル作用ヲ云ノ辞類トス」

自動活辞

自動活辞ハ為ス所ノ動作ノ獨リ其為ノ物體ニ止リ

毫モ他物ニ及達セザル活辞ヲ稱フ故ニ其上ニ第一格ヲ領ズ即チ「日ひがあかかがやく」暁やく「玉たまがひかる」光か「日ひがくるる」暮る「夜よがあくる」明くノかがやくひかるくるあく引ノ如ク他物ニ関涉セズシテ其動作ハ明瞭ナルヲ以テ能動受動ノ中間ニ在テ獨立スル辞類トス

役動活辞

役動活辞ハ他ヲ使役シテ動作ヲ起サシムル活辞ヲ稱フ故ニ其上ニ必ず第四格ヲ領ズ即チ「童子に犬いぬをうたる」撃「婦人に兒こをいだかる」抱「ノうたるといだから」ノ如ク他ヲ役シテ其動作ヲ起リシムル辞類トス

被役動活辞

被役動活辞ハ他ノ使役ヲ受テ動作ヲ起ス活辞ヲ稱フ
 故ニ其上ニ受動ト同ク必ス第三格ヲ領ズ即チ「犬を
 親にうたせらる」兒を夫にいだかせらる」ノうたせ
 らる被いたか令せらる撃」如ク他ノ使役ヲ受テ其動作ヲ起
 ス活辞ヲ云フ而シテ「月に浮れてある所」酒に酔て
 ねぶらる所」ト云フある所かる所ねぶらる所ノ如キハ著シク
 使役ヲ與フル者ヲ見サズト雖モ細ニ其義ヲ解説スレ
 バ「我心ノ月ノ為ニ浮サレテ行ク」我心ノ酒ノ為ニ
 酔セラレテ睡ル」ノ義ニシテ即チ我心ノ月ト酒トノ

使役ヲ受テ其動作ヲ起セル者ト觀ル可シ蓋被役動活
 辞ハ受動活辞中一種ノ辞類トス命令法ハ他ノ活辞
 命令法ハ他ヲ使役スル動作ヲ示スニ用フ其法ハ活辞
 ノ轉變ノ格ト其辞尾ニ命令辞ノ兼接スルトニ因テ成
 ル者トス活辞ノ轉變ニ成ル者ハ四段ニ於テハ終ノ轉
 ジシトシ下二段ニ於テハ始ノ轉ジシトシ第二變格ニ於テ
 シ第一變格ニ於テハ始ヲ轉ジシトシ第三變格ニ於テモ亦終ノ轉ジシト
 ハ終ノ轉ジシトシ第三變格ニ於テモ亦終ノ轉ジシト
 ス

活辞ノ尾ニ希求辞ヲ接續スルニ因テ成ル者トス接續
スル所ノ希求辞ニ單接スル者アリ複接スル者アリ單
接ハ希求辞ノ單ニ活辞ノ尾ヲ兼ル者トシ複接ハ活辞
ノ尾ニ過去辞ノ志テ志ニ志若クバ兩辞ノも等ヲ附テ
然リ後ニ希求辞ノ兼接スル者トス

○單接

○複接

四段活辞

よまばや

よみに志がな

上二段活辞

みばや

みに志がな

下一段活辞

へばや

へて志がな

上二段活辞

まひばや

まひて志がな

下二段活辞

はせばや

はせて志がな

第一變格活辞

こばや

きて志がな

第二變格活辞

いなばや

いに志がな

第三變格活辞

とらばや

とりて志がな

疑問法

疑問法ハ心ニ疑訝スル動作ヲ示スニ用フ其法ハ疑辞
ヲ句頭ニ置キ或ハ句中辞尾等ニ接續スルニ因テ成ル
者トス即チ「なにの花ぞ」「花が開くらむ」「花は匂ふ
や」ノ類

句頭ノ疑辞

句中ノ疑辞

辞尾ノ疑辞

たれの家ぞ 人や住むらむ 風は吹くや
いづれの國ぞ 月か照るらむ 花は開くや
いかに在るぞ 花かも開ける 鳥は鳴くや

崇敬法

崇敬法ハ崇敬スル動作ヲ示スニ用フ其法ハ活辞ノ轉
變ト活辞ノ尾ニ崇敬辞ヲ接續スルトニ因テ成ル活辞
ノ轉變ニ因テ成ル者ハ四段ノ佐行ニ再轉スルト下二
段ノ良行ニ再轉スルトノ二個トス四段ノ佐行ニ再轉
スル者ハ「よまさ」^讀「よまま」^讀「よませ」^讀ノ轉
ジヲ云ヒ^{四段活辞ノ擧グ}下二段ノ良行ニ再轉スル者

ハ「いはれ」^言「いはる」^言「いはるる」^言「いはるれ」^言ノ轉ジ

ヲ云フ^{受動形ノ轉ジニ同ジ其表ハ}下二段活辞ノ條下ニ擧グ

活辞ノ尾ニ崇敬辞ノ接續スルニ因テ成ル者ニ三種アリ
他ノ為ス作業ヲ呼ブ辞尾ニ附テ敬意ヲ示スト已ノ
為ス作業ヲ呼ブ辞尾ニ附テ敬意ヲ示スト自他ノ為ス
作業ヲ呼ブ辞尾ニ互ニ附テ敬意ヲ示ストナリ
他ノ作業ニ附ル崇敬辞 己ノ作業ニ附ル崇敬辞

よみませ^讀 ききたまふ^聞
はげませたまふ^勵 おもひたまふ^思
つとめさせたまふ^勉 みたまふ^見

つとめさせたまふ

自他ノ作業ニ附ル崇敬辞

我がつけまつる

人がつけまつる

我がつけたてまつる

人がつけたてまつる

我がつけまゐらまゐる

人がつけまゐらまゐる

活辞ノ時

時ハ說話ニ罹ル事ノ說話ヲ為ス時間ノ前後或ハ同時ニ在ル者ヲ云フ而メ其時ヲ分テ現在過去大過去未來想像過去ノ五時トス

現在時

現在時ハ「書をよむ」字をかかむノよむかかむノ

如ク說話ニ罹ル事ノ說話ヲ為ス時ト同時時間ニ在テ

遅速ナキヲ示ス者トス

過去時

過去時ハ「書をよみき」字をかかせきノよみきか

かせきノ如ク說話ニ罹ル事ノ說話ヲ為ス時ニハ全ク

過ぎ去リ了レルヲ示ス者トス

大過去時

大過去時ハ「書をよみたりき」字をかかせたりき

ノよみたりきかかせたりきノ如ク說話ニ罹ル事ノ説

話ヲ為ス時ニハ已ニ疾ク過ギ去リ了テ其影響ヲモ見
聞シ得可ラザルヲ示ス者トス

未來時

未來時ハ「書をよまむ」字をかかせむ」ノよまむか
かせむノ如ク說話ニ罹ル事ノ說話ヲ為ス時ニハ未ダ
來ラザルヲ示ス者トス

想像過去時

想像過去時ハ「書をよみつらむ」字をかかせつらむ
」ノよみつらむかかせつらむノ如ク說話ニ罹ル事ノ
說話ヲ為ス時ニハ已ニ過去ニ屬シタル可キヲ想像ス

ルヲ示ス者トス

活辞時刻法

活辞ノ時刻ハ其轉變ノ格ト活辞ノ尾ニ現在辞過去辞
將來辞ノ單接スルト複接スルトニ因テ成ル者トス
轉變ノ格ニ因テ成ル時ハ次章ニ擧ル所ノ將然。截斷。連
體。已然。ノ四格ニシテ將然。連體。已然。ノ三格ハ接辞ノ結
合ヲ得ルニ非ザレバ其全形ヲ成ス不能ナル者ナリ
活辞ノ兼接ヲ待ズシテ其全形ヲ示ス者トス

○將然

○截斷

未來時

よ 讀 ま

現在時

は 取 づ

新學文典 卷上

いざなは

○連體

現在時

もゆる
然
きゆる
減

過去時

いね
往
れ
為

○已然

うらむ
恨

活辞ノ尾ニ現在辞。過去辞。将来辞。ノ單接スルト復接ス
ルトニ因テ成ル時ハ皆其全形ヲ成ス者トス

○單接

○復接

現在時

よむなり
讀
かくなる
書

大過去時

よみにたり
讀
かきたりき
書

過去時

よみき
讀

想像過去時

よみつらむ
讀

未來時

かきき
書
よまむ
讀
かかま
書

過去時ト想像過去時トハ單復ヲ變更シテモ亦各其時
ヲ示スアリ

○複接

○單接

過去時

よみぬなり
讀
かきたるなり
書
想像過去時

よみけむ
讀
かきけめ
書

活辞ノ轉變并表

活辞ノ轉變ヲ左ノ六種ニ分ツ

四段 上一段 下一段
上二段 下二段 變格

今飽字ヲ四段ニ轉ジ射字ヲ上一段ニ轉ジ蹴字ヲ下一段ニ轉ジ起字ヲ上二段ニ轉ジ受字ヲ下二段ニ轉ジ為字ヲ變格ニ轉ジ試テ其轉變ノ法ヲ示ス

四段 飽 あが あき あく あけト順ニかき。

上一段 射 い。い。い。い。れト一音ノ辞尾ニる。れ。

下一段 け。け。け。け。れト一音ノ辞尾ニる。れ。

上二段 起 おき。おき。おき。おき。れト順ニ

下二段 受 うけ。うけ。うけ。うけ。れト逆ニ

變格 爲 せ。せ。せ。せ。れトせ。志。志。志。ノ

三段ニ轉ジをノ尾ニる。れヲ附ル者ヲ云フ然レハ變格ハ表ニ掲グル如ク轉

變一ナラズ或ハ四段ノ活辞ト同クシ
テ格ノ異ナル者アリ或ハ四段ニ轉ジ
テるれヲ添フル者アリ

活辞ノ轉變スル階級上ニ六個ノ格アリ將然連用假體
截斷連體已然ト云フ

將然

將然ハ動作ノ將ニ成ントスル格ヲ云フ「字をならは
む」書とよまむノならはよまノ如ク未ダ其事ノ始
ラザル前ヲ云フ而ノ其時ハ未來トス

連用

連用ハ動作ノ絶エズシテ連續スル格ヲ云フ「ならひ

をむ」^初「よみはむ」^始如クなりひよみト云フ格ヨリ

直ニそむはむト云フ用言ニ連續スルヲ云フ而ノ其

時ハ接辞ノ結合ニ因テ過去ヲ見ス者トス

假體

假體ハ實體言ト其用ヲ同クスル格ヲ云フ「まつり」

往く」^教「を去へを受く」ノまつりを去へノ如ク動作ノ

一個ノ形ヲ爲ス者トス

截斷

截斷ハ動作ノ連續セズシテ切ル、格ヲ云フ「友をあ

つゝ馬とほき^馳「一つむはを」如ク一個ノ動作ノ切ル、者トス而ノ其時ハ現在トス

連體

連體ハ體言ニ連續スル格ヲ云フ「山をこゆる」人をほゆる^犬「如クこゆるほゆるト云フ格ヨリ直ニ人犬ト云フ體言ニ連續シテ「山をこゆる人」人をほゆる」ト云フが如シ而テ其時ハ現在トス

レル後ヲ云フ而ノ其時ハ過去トス

活辞轉變表



活辞轉變表

右ニ擧ル活辞轉變ノ總表ヲ四段上一段等ノ各種ニ分別シ右傍ニ其格ヲ掲ゲ格ニ因テ兼ク可キ普通ナル接辞ヲ其格ノ欄内ニ収テ覽閱ニ便ス

わ	ら	や	ま	は	な
り	み	ひ	に	ぬ	れ
ろ	め	へ	の	せ	け
る	よ	も	ほ	の	

Diagram showing connections between characters across four segments (四段) and one segment (一段). Red lines indicate transitions. Labels like '上段', '二段', '三段', '四段' are placed near the characters to denote their segment. Some characters have small boxes with '変格' (change of form) or '活辞' (living words).

着	將	然	連	用	假	體	截	断	連	體	已	然
き	ら	ま	は	た	さ	か	り	み	ひ	に	ぬ	れ
む	り	み	ひ	ち	ま	き	ろ	め	へ	て	せ	け
て	り	み	ひ	ち	ま	き	ろ	め	へ	て	せ	け
に	り	み	ひ	ち	ま	き	ろ	め	へ	て	せ	け
き	ら	ま	は	た	さ	か	り	み	ひ	に	ぬ	れ
なり	り	み	ひ	ち	ま	き	ろ	め	へ	て	せ	け
かな	り	み	ひ	ち	ま	き	ろ	め	へ	て	せ	け
きれ	ら	ま	は	た	さ	か	り	み	ひ	に	ぬ	れ
ど	ら	ま	は	た	さ	か	り	み	ひ	に	ぬ	れ

Table of character combinations categorized by segment (四段, 一段) and grammatical function (將然, 連用, 假體, 截断, 連體, 已然). Each cell contains a character and a small box with a label like '種接辞' (variety of connecting words) or '現在辞' (present words).

下一段

綜	陪	蹴	將	然	連	用	假	體	截	斷	連	體	已	然
へ	ぬ	け	る	い	み	ひ	に	る	い	み	ひ	に	る	い
は	ば	ま	ま	む	ぬ	ぬ	ま	で	ま	ま	ま	ま	ま	ま
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種

上二段

舊	老	恨	戀	落	掘	起	將	然	連	用	假	體	截	斷	連	體	已	然
り	ひ	み	ひ	ち	志	き	る	い	み	ひ	に	る	い	み	ひ	に	る	い
は	ば	ま	ま	む	ぬ	ぬ	ま	で	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種

下二段

將然 連用 假體 截斷 連體 已然

刀學文典 卷上

四

得	受	瘦	捨	兼	辨	譽	消	枯	飢
ㄨㄛ	ㄛㄟ	ㄛㄟ	ㄛㄟ	ㄛㄟ	ㄛㄟ	ㄛㄟ	ㄛㄟ	ㄛㄟ	ㄛㄟ
將來辭	まま	む	む	む	む	む	む	む	む
現在辭	て	け	け	け	け	け	け	け	け
過去辭	り	り	り	り	り	り	り	り	り
指示辭	に	に	に	に	に	に	に	に	に
現在辭	る	る	る	る	る	る	る	る	る
過去辭	り	り	り	り	り	り	り	り	り
指示辭	に	に	に	に	に	に	に	に	に
現在辭	れ	れ	れ	れ	れ	れ	れ	れ	れ
過去辭	り	り	り	り	り	り	り	り	り
指示辭	に	に	に	に	に	に	に	に	に

第一變格

為	來
ㄛㄟ	ㄛㄟ
將然	將然
連	連
用	用
假	假
體	體
截	截
斷	斷
連	連
體	體
已	已
然	然

第二變格

往
將
然
連
用
假
體
截
斷
連
體
已
然

死	な
ば	ねぬまて
に	たまか
とも	たまか
ぬ	まて
ぬる	まて
ぬれ	まて

第三變格 將然連用假體截斷連體已然

居有	ら
り	ら
に	ら
と	ら
ら	ら
れ	ら

四段以下下二段ニ至ル迄ノ轉變上ニ於テ普通ニ見ル
 、活辞ノ形ハ能動。自動。ノ二種ニシテ受動。被役動。
 ノ三種ハ總テ各段ノ活辞ノ再ビ下二段ニ移レル轉ジ
 二成ル者トス

能動 自動

四段	あがむく
いざなふ	あま
い	あま
射	あま
に	あま
煮	あま
け	あま
蹴	あま
下二段	あま
上二段	あま
四段	あま
あま	あま
あま	あま
あま	あま
あま	あま
あま	あま
あま	あま

上二段

去強
う恨らむ
ふ

下二段

を去
を教ふ
く

受動

四段活辞ノ下二段ニ移レル形

あざむかる
被欺
いざなはる
被誘

上二段活辞ノ下二段ニ移レル形

にらる
被煮
いらる
被射

下二段活辞ノ下二段ニ移レル形

けらる
被蹴

上二段

お光
ふ奮る
ゆ

下二段

ひ秀
も前
ゆ

役動

四段活辞ノ下二段ニ移レル形

おはせ
令進
もたせ
令持

上二段活辞ノ下二段ニ移レル形

きさせ
令着
あはせ
令見

下二段活辞ノ下二段ニ移レル形

はらさせ
令耻
くらさせ
令朽

上二段活辞ノ下二段ニ移レル形

まひらる
被強
うらみらる
被恨

下二段活辞ノ下二段ニ移レル形

あづけらる
被預
さづけらる
被授

被役動

上二段活辞ノ下二段ニ移レル形

はらさせ
令耻
くらさせ
令朽

下二段活辞ノ下二段ニ移レル形

うゑさせ
令植
つげさせ
令告

下二段活辞ノ下二段ニ移レル形

おはせらる
被令進
もたせらる
被令持

下二段活辞ノ下二段ニ移レル形

きさせらる
被令着
みさせらる
被令見

然レモ各段ノ活辞ニ於テ各種ノ形ヲ固有ニ具ヘタル

あかせる。おかせれ。おへら。おへり。あへる。あへれ。ト轉ジテ其動作ノ然カ在ルヲ云フ活用トス

段四 良行再轉

釣住	打押	飽
ら	り	る
れ		

下二段活辞

下二段活辞ノ始ノ轉ジへえハ接辞ハ兼接ヲ待ズシテ或ハ命令ヲ示ス者トス乃チ「火はも」氷はとけ「如シ然レバ此用法ハ獨リ上古ノ文法上ニ在ル者ニ於テハ他ハ活辞ト同ジク命令

辞ヲ附加ス可キ法ニ歸ス

下二段再轉

四段以下各段ノ活辞ヨリ下二段ノ佐行りせ良行れノ二行ニ移テ再轉スル者アリ之ヲ下二段再轉云フ下二段ニ再轉スル各段ノ活辞ハ必ズ將然格ヨリ移ル而シテ下二段ニ移テ再轉スル形ハ受動。役動。被役動。及ビ動作ヲ崇敬スル轉ジノ四種ニシテ佐行ニ轉ズル者ヲ役動トシ良行ニ轉ズル者ヲ受動被役動及ビ動作ヲ崇敬スル轉ジトス四段活辞ノ佐行ニ移テ役動ノ形ヲ成スハ將然格ヨリ直ニ「あかせ」飽「あかせ」飽「あかせ」飽

る。あかたれ。ト轉ジ其他ハ皆其將然格ノ辞尾ニさ
マ附テ「^令かさせ。」^令かさた。「^令かさた。」^令かさたれ。
ト轉ズル者トス

段二下 佐行再轉

捨	恨	蹴	着	飽
せ				
た				
た				
たれ				

四段活辞ノ良行ニ移テ受動ノ形及ビ動作ヲ崇敬スル
轉ジテ成ス者ハ將然格ヨリ直ニ「^被あかれ。」^被あか
あかる。ト轉ジ其他ハ皆將然格ノ辞尾
ニラマ附テ「^被きられ。」^被きらる。「^被きらる。」^被きらるれ。
ト轉ズル者トス

ト轉ズル者トス而ノ其被役動ノ形ヲ成ス者ハ佐行
再轉ノ將然格ノ辞尾ニラマ附テ更ニ良行ニ移リ「^被あ
かせられ。」^被あかせらる。「^被あかせらる。」^被あかせらるれ。
ト轉ズル者トス

段二下 良行再轉

捨	恨	蹴	着	飽
れ				
る				
る				
るれ				

變格活辞

變格活辞ノ第一變格ノ始ノ轉ジヨリ「^來こ。志。」^為せ。志。
ト過去辞ノ志連用格ヲニ續キ第三變格ノ第二ノ轉ジヨ

リ「ありや」をりや」ト疑辞ノや兼断格ニ續キ又「
 ありと」をりと」ト兩辞ノと兼断格ニ續キ又「あり
 有」をりかま」ト一種接辞ノかま兼断格ニ續ク然
 レ其連續スル所ノ接辞ノ格ヲ推テ直ニ第一變格ノ
 始ノ轉ジハ連用ノ格ヲ兼ネ第三變格ノ第二ノ轉ジハ
 截断ノ格ヲ兼タリトハ定ム可ラズ只其格ノ第一ノ轉ジ
 轉格ノ變ト觀ルベキ者ナリ變格ノ格ヲ兼有ニ連用及ビ截
 作レ示者ハ只其連續
 第一變格ノせ。志。を。る。を。れ。ハ。假體ノ尾ニ附テ「ま
 りを」お。遊。び。を。」「た。た。か。ひ。を。」「た。は。ぶ。れ。を。」「ト云ヒ

又漢語ノ尾ニ附テ「かんぞ」「らんぞ」「かうやうを」
 べんきやうを」ト云フ類已ニ其假體ト成リタル辞尾
 附テ再ビ之ヲ擣カスルニ用フル者トス
 形状言
 形状言ハ事物百般ノ形容ヲ示ス辞トス即チ「月はき
 よ志」花はあ紅か志」ながく居る」ひさまゝ住む」
 きよ志あかまながくひさまゝノ如シ蓋形状言ハ本ト
 體言ノ尾ニ單複ノ活用辞ヲ附テ之ニ活用ヲ命ズル者
 ナリ故ニ其活用辞ヲ除クハきよあかひるひさノ如
 ク皆其原語タル形容ヲ示ス所ノ虚體言ニ歸ス體言及

言ノ如キモ其始ハ一音或ハ二音ニシテ後ニ四音五音ト重ナレル者ナリ然ルニ形状言中ニ於テモ原語ノ疑レキ如キ者アルハ已ニ多ク重ナルレ言辞ヲ呼ビ則タ考ルニ論ゼラレ

形状言ノ轉變并表

形状言ノ轉變ハ形容ヲ呼ブ體言ノ移リ來テ轉ズル者ヲ云フ其轉變ヲ單辞複辞變格ノ三種ニ分ツ今憎字ヲ單辞ニ轉ジ戀字ヲ複辞ニ轉ジ速字微字ヲ變格ニ轉ジ試テ其轉變ノ法ヲ示ス

單辞

憎 にくさ。にくく。にくま。にくき。

複辞

戀 こひまき。こひま。こひまき。こひまき。こひまき。こひまき。

變格

速微

むやけく。むやけま。むやけま。むやけま。むやけま。むやけま。むやけま。むやけま。むやけま。むやけま。

單辞ニ轉ズル原語ハ之ヲ重ヌル片ハ複辞ノ轉ジニ變ズル者ナリ即チ憎字ハ單辞ノ轉ジナレト之ヲ重ヌレバ複辞ニ變ジテ「にくにくまき」「にくにくまき」に

初學文典 卷上

如シ
くにくま」にくにくまき」にくにくまげ」ト轉ズル
形状言亦作用言ト同ク其轉變スル階級上ニ左ノ四
個ノ格ヲ有ツ

連用 假體 截斷 連體

今此四個ノ格ヲ表ビ右傍ニ掲グ格ニ因テ兼ク可キ普
通ナル接辞ヲ其格ノ欄内ニ收ムルト作用言ニ同ジ

單辞

憎

假體連用	假體	假體截斷	連體假體
かま	かま	かま	かま
かま	かま	かま	かま
かま	かま	かま	かま
かま	かま	かま	かま
かま	かま	かま	かま
かま	かま	かま	かま
かま	かま	かま	かま

複辞

安	寒
さ	さ
だに	だに
は	は
の	の
と	と
は	は
の	の
は	は
の	の

單變格

速
①
だに
志
や
き
はに

恣	樂	恠
まき	まき	まき
に	に	に
は	は	は
の	の	の
は	は	は
の	の	の
は	は	は
の	の	の
は	は	は
の	の	の

連用 假體 截斷 連體

刀學文典 卷上 七 五十

辭複
變格

連用

假體

截斷

連體

微 ま	現在辭 て	兩辭 だに	も
ま	現在辭 ま	指示辭 ぞに	こ
ま	兩辭 や	種辭 かま	も
ま	現在辭 に	兩辭 だに	も

形状言ノ變化

形状言ノ變化ハ轉ジノ作用四段ニ移ルヲ云フ而ノ其
 移ル轉ジニ二種アリ其第一ハ麻行ノ四段ニ轉ジ
 其第二ハ良行ノ四段ニ轉ズ之ヲ形状ノ四段活用

ト云フ

麻行ノ四段ニ轉ズル者

麻行ノ四段ニ轉ズル所ノ形状言ハ單辭ハ其原語ヨリ
 直ニ移リ復辭ハ其轉ジノ志轉ジノヨリ移ル者トス乃
 左ノ如シ

單辭 にくま。

にくみ。

にくむ。

にくめ。

復辭 たのまま。

たのみ。

たのまむ。

たのまめ。

麻行ノ四段ニ轉ズルニ混ヒ易キ者アリ即チ「雪の
 ぶりみふらむみ」風のふきみふかむみ」等ノみ是ナ
 リ此みハ一種ノみニシテ「夜をさむみ」夜をうむみ。

等ノミト異ナリ「さむみ」「うきみ」ノミハ形状單
辭ニ轉ズベキ原語ノ麻行ニ轉ゼシ者ナレバ其ミヲ除
クハハ原語ニ歸リ又單辭ニモ活用スベシ故ニ形容ヲ
云フ辭ニ屬スルミハ悉ク此麻行ノミナルハ昭ニ知ラ
ル可シト雖モ初學ニ在テハ動モスレバ一種ノミニ混
フルヲアリ故ニ今麻行ノミト併セテ左ニ例ヲ掲グ

○麻行ノミ

○一種ノミ

單辭 管とあらみ。 月のてりみ。てらむみ。
單辭 夜をうきみ。 雨のふりみ。ふらむみ。
單辭 風をはやみ。 空のはれみ。くもりみ。

單辭 水をあどみ。 人のなみ。なまむみ。
單辭 底とふかみ。 人のなきみ。わらひみ。
復辭 人をこひまみ。 舟のうきみ。まぶみ。
復辭 人をまつかまみ。 物のみえみ。み江むみ。
復辭 名をむつままみ。 兒をおひみ。いだきみ。
復辭 世をくるまみ。 弓をひきみ。ゆるべみ。
復辭 秋をかまみ。 道をゆきみ。ゆかむみ。
一種ノミト稱スルミハ右ニ舉タル如ク皆事物ノ動作
ヲ呼ブ所ノ辭尾ニ屬シテ其動作ヲ試ムル義ノ辭トス
試ニテ書キ得ベキヤ書テ試ニテ得ベキヤ讀テ故ニ「月

其第二ハ「やま」ある「こひまか」
ノ約リタルカノ通音ニ因リ更ニケニ變ズル者ヲ云フ
第一音ヲ第四音ニ移スハ萬葉集ニ「雪」カモ零ラシ
「やまけら」
「やまけり」
「こひまけり」
「こひまけり」

第二變形

第二變形中ノ第一音ノ「やま」ケリノ「こひま」
直ニケヨリ將然ヲ兼ル所ノ接辞ニ續クル「ハ」省テ

集ニ「國」ノ「遠」カバ「ま」カ「善」カ「ら」バ「等」ノ「類」多シ
而ル此第二變形ハ「言」中ニ於テ「省」ケル者ナリ
ナシカテ「古」ニ「徵」シテ「細」之ヲ「説」レバ「或」ハ「理」會
書名ヲ掲グル「者」アリ「覽」者「請」フ他「恠」ム「例」ニ「背」テ「左」ノ「例」
如シ

單辞

複辞

萬葉集「やまけむ」
十卷「やまけむ」
八卷「はやけむ」
萬葉集「志げむ」
古今集「志げむ」
十萬葉集「かまけむ」
右ニ舉ル所ノ第二變形ノ「兼」タル「む」
三萬葉集「こひまけむ」
萬葉集「こひまけむ」
新勅撰集「こひまけむ」
十萬葉集「ひさまけむ」
十萬葉集「ひさまけむ」
十萬葉集「かまけむ」
十萬葉集「かまけむ」

安をくとも「こひまくと」ノ如シ此接續ハ第一變形
 ニテ「やまからば」^安「こひまからば」^安「やまからとも」^安
 こひまかりともト云フベキカヲクニ移シテリヲ
 省ケルナリ兼集卷ニ移ス例ハ息つかまかばト云ヘリヲ萬
 ヲ省クハ第二變形ノ如クヲマカハト云フ如シヲ
 つくだし^退こひまからば^出
 然ニくま^退ハ單複共ニ第二ノ轉ジニテ其格ハ連用
 假體ナレバ將然截斷ヲ兼ク可キばともト連合ス可
 キ理無キニ常ニ連合スルヲ以テくま^退ニ將然截斷
 ノ格アリト説ク者アルハ非ナリ若シ此説ノ如クハ
 複辭ノま^退ノけむ^退けはニ連續スルモ亦其格無ル可ラ

ス果シテ然ラバ其格ハ何等ノ格ニテ連續シ又けむ
 ければ「からむ」^安「からば」^安ノ意ニ聞ユルハ何等ノ
 辭義ニ係ルカモ之ガ解説ヲ要メザルヲ得ザルガ如
 シ蓋此説ヲ爲ス者ハ形状一般ノ變化ヲ通觀セザル
 ニ因ルナル可シ

第二くまノ變化

單辭複辭ノくまノくマ延テけくまけくト呼ブア
 リ即チ單辭ノ「やま^安く」ヲ「やまけく」^安「さむく」^安ヲ
 「さむけく」^安複辭ノ「こひま^安く」ヲ「こひまけく」^安
 たのま^安く」ヲ「たのまけく」^安ト云ヘルガ如シ而シ此

トヲ延タルけくニ紛へ易キ者アリ「たひらけく」ヤ
まらけく」ノけく是ナリ今延タル者ト異ナル者ト
併セテ左ニ其例ヲ示ス

○延タル者

やま	けく	やま	けく	やま	けく	やま	けく
安		安		安		安	
さむ	けく	さむ	けく	さむ	けく	さむ	けく
寒		寒		寒		寒	
収た	けく	収た	けく	収た	けく	収た	けく
嫉		嫉		嫉		嫉	
いと	けく	いと	けく	いと	けく	いと	けく
惜		惜		惜		惜	
いと	けく	いと	けく	いと	けく	いと	けく
憂		憂		憂		憂	
いと	けく	いと	けく	いと	けく	いと	けく
明		明		明		明	
いと	けく	いと	けく	いと	けく	いと	けく
豊		豊		豊		豊	
いと	けく	いと	けく	いと	けく	いと	けく
幽		幽		幽		幽	

○異ナル者

此伸音ノけくノ中ニくヲ除テけヨリさくまきげニ轉
ズル者アリ「さむけさ」「さむけく」「さむけさ」「さむ
けき」「さむけけ」ノ如シ

下段ニ擧タルけくハ伸音ニ非ズシテ辞尾ノ音ノ轉ゼ
シ者トス例ヘバ「たひらか」「やまらか」ト云フベキ
カヲ第四音ノけニ轉ジ第一音ヲ第四音ニ移スハ第一
而ノ「たひらけさ」「たひらけく」「たひらけさ」「たひ
らけき」「たひらけげ」「やまらけさ」「やまらけく」「や
まらけさ」「やまらけく」

まらけ。志「やまらけき。」
まらけ。志「やまらけけ。」
まらけ。志「やまらけげ。」
まらけ。志「ト單辭ノさく。」
まきげニ活用セシ第二ノ轉ジノけくナリ

單辭ノげ

單辭ノ第五ノ轉ジノげ。
ク「物おもひげ。」
過去辭ノて兼用格たる兼用格等ニ係ルテアリ
壺董卷ニハわらははげたり。類故ニ連用格ヲモ兼タル
ニ似タリト雖モ未ダ一般ノ例トハ看做ス可ラズ

形状變格

形状ノ變格ハ單復共ニ其轉ズル數ノ足ラザル者ト轉

ズル所ノ格ニ小異接續スベキ格ノ接辭ニテ或アル者ハ接續セザル者アル者
ト云フ而メ表ニ掲グル速字微字ノ三此轉ジト為ス
ニ非ズ接辭ニ収タル如字可字ノ類都テ志志等ニ活
用シテ單復二辭ノ正數ニ足ラザル者蓋字ノ如キトス
ルト類活用ハ皆此變格中ノ辞トス

初學日本文典卷之上終

初學文典 卷上 接一辞 接二辞 接三辞 接四辞 接五辞 接六辞 接七辞 接八辞 接九辞 接十辞 接十一辞 接十二辞 接十三辞 接十四辞 接十五辞 接十六辞 接十七辞 接十八辞 接十九辞 接二十辞 接二十一辞 接二十二辞 接二十三辞 接二十四辞 接二十五辞 接二十六辞 接二十七辞 接二十八辞 接二十九辞 接三十辞 接三十一辞 接三十二辞 接三十三辞 接三十四辞 接三十五辞 接三十六辞 接三十七辞 接三十八辞 接三十九辞 接四十辞 接四十一辞 接四十二辞 接四十三辞 接四十四辞 接四十五辞 接四十六辞 接四十七辞 接四十八辞 接四十九辞 接五十辞 接五十一辞 接五十二辞 接五十三辞 接五十四辞 接五十五辞 接五十六辞 接五十七辞 接五十八辞 接五十九辞 接六十辞 接六十一辞 接六十二辞 接六十三辞 接六十四辞 接六十五辞 接六十六辞 接六十七辞 接六十八辞 接六十九辞 接七十辞 接七十一辞 接七十二辞 接七十三辞 接七十四辞 接七十五辞 接七十六辞 接七十七辞 接七十八辞 接七十九辞 接八十辞 接八十一辞 接八十二辞 接八十三辞 接八十四辞 接八十五辞 接八十六辞 接八十七辞 接八十八辞 接八十九辞 接九十辞 接九十一辞 接九十二辞 接九十三辞 接九十四辞 接九十五辞 接九十六辞 接九十七辞 接九十八辞 接九十九辞 接一百辞

初學日本文典卷之下

豐後

物集高見
根本真苗

校

接一辞

接辞ハ事物ヲ接續シ及ビ文脉ヲ上下ニ通ズル媒介ニ用
フル短辞ヲ云フ乃チ「親友と訪ふ」「學問を為す」「旅に
て。故郷の人に逢ふ」「故郷の人と。旅の空の月を觀る」ノ
如シ而メ接辞ニ實體言ヲ兼ル者アリ虚體言ヲ兼ル者ア
リ假體言ヲ兼ル者アリ代名言ヲ兼ル者アリ作用言ヲ兼
ル者アリ形状言ヲ兼ル者アリ又接辞ト接辞ト連續スル
者アリ實體言ヲ兼ル者ハ「人の」「月と。」虚體言ヲ兼ル

初學文典 卷上

者ハ「夢に」「心は」「假體言ヲ兼ル者ハ」「思ひを」「樂み
に」「代名言ヲ兼ル者ハ」「我が」「汝は」「作用言ヲ兼ル者
ハ」「問ふに」「學ぶは」「形状言ヲ兼ル者ハ」「近きに」「麗
まきは」「接辞ト接辞ト連續スル者ハ」「を」「は」「も」「ぞ」ノ
如シ此接辞ハ其用法ノ差異ニ隨テ之ヲ左ノ各種ニ區別
ス

○接辞ノ種類

- 第一 嘆 辞
- 第二 希求 辞
- 第三 命令 辞
- 第十一 反 辞
- 第十二 兩 辞
- 第十三 分量 辞

第十四 禁止 辞

第十五 指示 辞

第十六 現在 辞

第十七 過去 辞

第十八 將來 辞

第十九 否不 辞

第二十 疑 辞

接辞ニモ亦格アリ將然連用假體截斷連體已然ト云フ全
ク作用言ノ格ト其義ヲ同ス然レニ接辞ハ固ヨリ體用ニ
語ノ媒介ニ用フルノ三ニテ獨立スベキ辞類ニ非ザルヲ

以テ體用ヲ兼接セシ上ヨリ觀ルニ非ザレバ其格ノ如何
ハ之ヲ明知スルニ由ナシ故ニ先ヅ各種ノ體言及ビ用言
ヲ兼ル表ヲ舉ゲ逐次ニ其下ニ連續スル格ト用法トヲ詳
悉スベシ

體言ヲ兼ル接辭

此表中ニ掲出スル接辭ハ實體言ノ「ひと」虚體
言ノ「こころ」假體言ノ「あそび」「たのまき」
代名言ノ「われ」ト云フ辭ヲ以テ例ヲ古書ニ徵
シ一々ニ推シ試ミシ者ニ係ル而メ體言ハ實體言
ノ外ハ大率其辭ニ因テ連續スル者ト否ラザル者

トアリ譬ヘバ數辭及ビ聲音等ハ同シ虚體言ナレ
ト僅ニ一個ノ接辭ノミニ係リテ數辭ハ「ひと」分
量辭ノ「よそよと」係リ聲ト音トハ「ひよひよと」
連續セズ又「われ」「なれ」ト「あ」「な」トハ同
ジ代名言ナレド「われ」「なれ」ヲ兼テ「わ」「な」
「ヲ兼ザル者アリ」指示辭ノ「われ」「なれ」ハ兼
ク「可」「ら」「が」「ル」「如」「シ」ハ兼 此類ノ如キハ一辭一辭ニ就テ
其例ヲ舉ル能ハズ然レド體言ヲ兼ル接辭ハ此表
ニ載スル者ノ外ニ在ルコトナケレバ其兼ルト兼
ザルトハ其辭ニ就テ推シ試ミバ自ラ明瞭ナル可

シ

實體ヲ兼ル接辞	嘆辞	よ	か	も	や
虚體ヲ兼ル接辞	嘆辞	よ	か	も	や
作用ノ假體ヲ兼ル接辞	嘆辞	よ	か	も	や
形状ノ假體ヲ兼ル接辞	嘆辞	よ	か	も	や
代名ヲ兼ル接辞	嘆辞	よ	か	も	や
指示辞	指示辞	が	に	を	は
禁止辞	禁止辞	な	ら	な	ら
現在辞	現在辞	な	ら	な	ら
疑問辞	疑問辞	な	ら	な	ら
反辞	反辞	な	ら	な	ら
両辞	両辞	な	ら	な	ら
分量辞	分量辞	な	ら	な	ら
助辞	助辞	な	ら	な	ら
種接辞	種接辞	な	ら	な	ら

實體ヲ兼ル接辞	嘆辞	よ	か	も	や
虚體ヲ兼ル接辞	嘆辞	よ	か	も	や
作用ノ假體ヲ兼ル接辞	嘆辞	よ	か	も	や
形状ノ假體ヲ兼ル接辞	嘆辞	よ	か	も	や
代名ヲ兼ル接辞	嘆辞	よ	か	も	や
指示辞	指示辞	が	に	を	は
禁止辞	禁止辞	な	ら	な	ら
現在辞	現在辞	な	ら	な	ら
疑問辞	疑問辞	な	ら	な	ら
反辞	反辞	な	ら	な	ら
両辞	両辞	な	ら	な	ら
分量辞	分量辞	な	ら	な	ら
助辞	助辞	な	ら	な	ら
種接辞	種接辞	な	ら	な	ら

七

四

作用言ヲ兼ル接辞

此表中ニ掲出スル接辞ハ將然連用ハ四段言。截斷。ハ上二段言。連體。ハ下二段言。已然。ハ四段言ト變格ノ活辞トヲ以テ例ヲ古書ニ徴シ一々ニ推シ試ミシ者ニ係ル而ノ同ジ將然中ニ於テモ各段ノ活辞ニ因テ兼ル者ト兼ザル者トアリ例ヘバ命令辞ノよ。こそハ作用ノ將然ヲ兼ル接辞ナリト雖モ四段ノ將然ノミハ兼ザルガ如シ四段ノ活辞ハ其第四音直ニ命令ヲ示スヲ以テ然レ氏此類ノ如キハ一々ニ表ニ掲ルヲ能ハ

ザルヲ以テ其分明ナラザル者ハ更ニ下條ニ舉ル所ノ各種ノ接辞ニ就テ其格ノ如何ヲ觀ル可シ

將然ヲ兼ル接辞	連用ヲ兼ル接辞	截斷ヲ兼ル接辞	連體ヲ兼ル接辞	已然ヲ兼ル接辞
希求辞 ばや 命令辞 なむ 將來辞 む め も ま まく ま ませは 否不辭 ぞ ざら ざり ざる ざれ まぬ ぬ で に	希求辞 ね 禁止辞 ず連 指示辞 は ぞ連 こそ なむ 現在辞 て 過去辞 き け けら けり ける けれ けむ けめ けす まか	嘆辞 や よ も な ゑ 現在辞 なら 禁止辞 なら なれ 両辞 と と 少量辞 ばかり 相違辞 らむ らめ らふ めり める われ	嘆辞 や よ か か 指示辞 に が ぞ連 ぞ斷 こそ を なむ 現在辞 なら なれ 疑辭 か か斷 断 かも斷 断 なむ	指示辞 を連 疑辭 か連 かも連 や連 やも連 や連 反辭 か連 かも連 や連 やも連 や連 兩辭 ど と 種接辞 ば

あはれ

え

上下ニ關係ノ格ヲ有ツ嘆辭ハ其數九個ニノ左ニ示ス
如シ

各種ノ體言ト作用ノ連體
截斷及ヒ四段ノ命令言ヲ兼ク
や 截斷
連體

各種ノ體言及ヒ作用ノ截斷
連體ト四段ノ命令言ヲ兼ク
よ 截斷

蝶ヲ花ヲ
鳴けや鶯
物を思ふよ
心細さよ

此よト命令辭ノよトハ常ニ甚ダ紛ヒ易シ「を去へ
よ」ト「なれへよ」トノ如シ「を去へよ」ノよハ
命令辭ニシテ「なれへよ」ノよハ嘆辭ノナリ斯ノ

如ク同辭同格ニ截斷ノ並ニ格ニニテ二種ニ分ル者ハ其兼

ル辭ノ格ノ異ナルニ因ル乃チ命令辭ハ將然ヲ兼ケ
嘆辭ハ命令ヲ示ス辭尾ヲ兼ル者トス詞本逸史ノ詔

聞食倍與止宣者ニテアル與モ嘆辭ノよナリス
實體虛體代名ト作用
形狀ノ截斷トヲ兼ク
も 截斷

實體虛體代名ト四段
ノ命令言トヲ兼ク
を 截斷

作用ノ形狀ノ截斷ト四段
ノ命令言トヲ兼ク
な 截斷

限り知らむ
妹待つ我を
船渡せと
船出悲去な
我は知らむ

作用形状ノ
截断ヲ兼ク
る截断

我は待むる。
我はさぶまゑ。

此。ハ上古ノ言辞ニテ中古以降ニハ殆ド用ヒガレ

如シ而ノ也。行ノ江ニ通ゼシ者アリ。江萬葉集ニテ父母

又萬葉集ニ「父母江」トアルヲ觀レバ實體言ヲモ

兼ルニ似タリ。江萬葉集ノ「父母江ニ祝ヒテ待タねノ

行レバ上ニ舉タル阿。行ノ江ニ祝ヒテ待タねノ通音ナ

各種ノ體言ト作用形状
ノ連體トヲ兼ク
ハトヤ截断

長閑にもあるか。
寂寥くもあるか。

豊なるかな

希求辞

静なるかな

希求辞ハ「讀まばや」「習はばや」ノばやノ如ク作用

ノ活辞ニ附テ心意ノ冀望ヲ見スニ用フル辞トス

過去辞ノ末ト兩辞
ノハトヤ兼ク
る截断

聞きに志が。

過去辞ノ末ト兩辞
ノハトヤ兼ク
かな截断

逢ふ由もがな
至りに志がな

過去辞ノ末ト兩辞
ノハトヤ兼ク
かも截断

常にもがな
人にもがなや

初學文典

疑辭 加連 かも連 反辭 や断載 やも断載 こそ なむ

作用ノ將然ヲ表ク
「ばや」截断

人に見せばや
聲を聞かばや

命令辞

命令辞ハ「勉めよ。」「教へよ。」ノよ。ノ如ク作用ノ活辞

ニ附テ他ニ使役ヲ與フル作業ヲ見スニ用フル辞トス

作用ノ將然連用ト禁
示辞ノビトヲ兼ク
「ぬ」截断

絶えなば絶えぬ。
雨な零りそぬ。

作用ノ將然ヲ兼ク
四段ノ將然ハ兼ク
「よ」截断

思出に為よ。
立出て見よ。

作用ノ將然
ヲ兼ク
「なむ」截断

若菜摘まなむ

霜は置かなむ

作用ノ將然ヲ兼ク
但レ
四段ノハ連用ヲ兼ク
「こそ」截断

夢に見えこそ
人に告げこそ

こそハこをこせトモ活用シテ萬葉集ニ「散りこそ

かちやめこそぬ。」「こをト云へバ禁止辞ノな。」
断ニ續

キ願フ義モ亦「勿レトこせト云へバ否不辭ノぬ。」
及ビ

希求辞ノぬニ連続ス

禁止辞

禁止辞ハ「往くな。」「打つな。」ノな。ノ如ク他ノ作業ヲ

禁ズルニ用フル辞トス

疑辭 加連 かも腫 互替 や職 やも職

作用ノ截断
フ兼テ
な 截断

花を折るを
戯を為す

此截断ノなヲ或書ニ雅言ナラズト云ヘリ然レ代古
今集 絶フ我を恨むふな夫木集 踏フ牛の子に草庵集ら謀
等ニ載タレバ其鄙語ナラザルヲ証スベシ又此を
ハ稀ニ連體ヲ兼タル者アレ代散木集ニハ落るなごま
普通ノ例トハ觀ル可ラズ

各種ノ體言ト作用形状
ノ連體トヲ兼テ
な 連用

人な咎めそ
吹な散志そ

此連用ノなハ禁止辞ノそト對スルハ普通ノ例ナレ

代或ハ其そヲ省クアリ萬葉集ニ「雲を霏霞き」

我無去とな佗びノ如シ 痛くな佗びそ

禁止辞な腫る兼テ
作用連用る兼テ
な 假體
截断

聲を聞かせそ

此そハ命令辞ノねニ係テそ萬葉集ニ踏みそねり
嘆辞ノやニ係テそ新拾遺集ニ神の駒よニ係テ
そ源氏若菜卷ニなもニ係テそ古今六帖ニ風を吹きそな
り雨な零ト呼ブアリ

指示辞

指令辞ハ「京に」
「田舎へ」
「是れぞ」
「其れぞ」
ノにへ

ど。ノ如ク其事物ヲ指示スルニ用フル辞トス

各種ノ體言ト作用形
状連體トテ兼ク
に 連用
假體

會體區體代名
ヲ兼ク
へ 連用
假體

各種體言
兼ク
の 連用
假體

欄子に倚る
物を思ふに

人の許へ
東の方へ

秋の草の花
月の照る

此のニ「の如く」ト云フ意ノト「の者」ト云フ意
ノト「とニ通フ」ノト「がニ通フ」ノトアリ「の
如く」ノ意ノハ古今集ニ「逝く水の早くぞ」ノ
如く

「早く」ノ意「松の葉の何時とも分かね」
意「の者」ノ意ノハ千載集ニ「世の常のとや」
世ノ常ノ意者佛足石歌ニ「常のも在れど」
意「とニ通フ」ノハ貫之集ニ「春の共に去別る丸
ば」
「春レ共レバレニシ別古今集ニ「秋霧の共に立出て」
秋霧ト共ニ「がニ通フ」ノハ古今集ニ「水の上に
立出テ」ノ意
「君ならば」
「水ノ上ニ浮ベル舟金葉集ニ
「待つ人の大空渡る月ならば」
「待ツ人が大空渡る
ノ如シ総テ用言ニ連続スルハ皆ガニ通フ者トス
古今集ニ「志賀の山越よて逢ル」ノ多意ナ逢リ又此のハ

初學文典 卷下
疑辭 加連 かも連 反聲 や断哉 やも断哉 と こそ なむ

嘆辞ノヤニ係テのヤト云ヘルコアリ 見の萬葉集ニ掘川

の百首ニ錦類

實體虚體代名ト作用
形状ノ連體トヲ兼ク
カガ 連體
假體

我が立濡れ去
見るが樂まさ

各種體言及ト作用形状連用
連體ト作用ノ已然トヲ兼ク
ぞ 連用

雪ぞ零るなる
風ぞ吹くなる

各種體言ト作用形状
ノ連體トヲ兼ク
ぞ 截断

益荒武夫ぞ
夜は真夜中ぞ

截断ノぞハ假體ニ用フルコアリ古今集ニ「何ぞは
善けく」風雅集ニ「人にはさぞのなからま志かは

ノ如シ

各種體言ト作用形状
ノ連體トヲ兼ク
と 連用
假體

朧月を觀る
山路を行く

各種體言ト作用形状
ノ連體トヲ兼ク
は 連用
假體

旅は憂え
露は深え

此はハ嘆辞ノヤニ係テはヤ古事記ニ「吾孀はよニ
係テはよ神武妹紀はニ「妹もニ係テはも古事記ニ「問
古今集ニ「雪ト呼ブコアリ然ニ嘆辞ノヤニ係ルは
やニ紛ヒ易キ者アリ乃チ疑辞ノヤニ係レル其レナ
り萬葉集ニ「我はや戀むレ然レバ疑辞ノヤハ連用ニテ

疑辭 加連 かも疑 又疑 や断裁 やも断裁 とこそ なむ

嘆辭ノヤハ截断ナレバ其格ヲ推サバ自ラ明瞭ナラ

各種ノ體言及ビ作用形状ノ連用
連用ノ已然トシテ兼ク
こそ 假體

我こそ教ふれ
汝こそ習へ

此こそハ假體ノ格ヲ有ツヲ以テ疑辭ノヤニ係テ
そヤト云フコトアリ 拾遺集ニ「我こそそヤ見其ヤハ連
用ノ格ヲ有テルヤナリ」

各種ノ體言ト作用形状ノ
連用連體トシテ兼ク
なむ 假體

花なむ開きける
是れなむ花なる
神になむ在りける

此なむなもハ共ニ上ノと。連ニ通ヒテ其用法全クぞ
ニ異ナル一無シ

現在辭

現在辭ハ「往きこ。觀る」「來て聽く」「思ふなる」「馴る
るなり」「ノて。なるなりノ如ク方今ノ時ヲ見シ又「然
なり」「斯くなる」ノ如ク否不辭ニ對シテ事物ノ然カ
在ルヲ示スニ用フル辭トス

各種ノ體言及ビ作用形状ノ
連用ノ已然トシテ兼ク
なら 將然

此人ならむ
彼書ならむ

初學文典 卷下

假體 連用 截斷 已然 未然 已往 未來 已往 未來 已往 未來

此ならハ現今其事物ノ然カ在ルヲ示ス辞ナルヲ以テ亦作用言ヲ兼ルキハ其活辞ニ未來ノ時ヲ見ス者トス

各種體言及作用形状ノ連體ト作用ノ截斷トヲ兼ク

なり 假體 連用 截斷

各種體言及作用形状ノ連體ト作用ノ截斷トヲ兼ク

なる 假體 連用 截斷

各種體言及作用形状ノ連體ト作用ノ截斷トヲ兼ク

なれ 已然

此ならなりなるなれハ「にあ」ノ約レルなノ良行

蟲の聲をなり
風の音をなり

人ぞ告ぐなる
我ぞ聞くなる

都なれば賑ふ
鄙なれば閑雅たり

ノ四段ニ活用セル辞ニテ固ヨリ主トシテ時ヲ見スベキ辞類ニハ非ザレドなりなるノ如キハ自ラ方今ノ時ヲ示シならなれノ如キハ自ラ未來ト過去トヲ示ス者ハ蓋其四段ニ働クヲ以テ作用ノ活辞ト同ジ時ヲ見ス者ナリ或説ニ此辞ハ「音を」ト云フ作用變格ノ截斷ヲモ兼ルヲ見レバ「に」ニ實ニ此説ノ如クハ非ズシテ尚其所由アラント實ニ此説ノ如クハ非ズ又兼ザル辞ナレバ別ニ所由アルベシト雖モ今ハ姑ク舊記ニ基テ「にあ」ノ約トセリ

作用形状ノ連用ヲ兼ク
て 假體 連用 截斷
てむ 假體 連用 截斷
てぬ 假體 連用 截斷
てむ 假體 連用 截斷
てぬ 假體 連用 截斷

明けて出づ
暮れで歸る

てハ連用ノ格ヲ有ツヲ以テ指示辞ノハニ係テては

校

か

か

文

や

や

と

こ

な

校

か

か

文

や

や

と

こ

な

萬葉集ニ「教冬ト云フヲてばニ混ズル」アリ

玉緒の

然ノ格ヲ有ツニ非ザレバばニハ係ラザルヲ種接辭

ヲニテ格然てばト云フ連続ノ辭アルハ此てニ非ズシ

テ「てあら」ノ約レルニてあつたニ約メらフ省テ更

例ハ形状ノ一者ナリ故ニ其てばノ下句ニハ必ず將

來辭アリテ應ズル例ナリ古今集ニ「梅が香を袖に

とも記念をらまよし紫式部日記ニ「たたらを」と

はかり叩く水鶏ゆゑあけてばいかに悔まからまよ

是ヲ以テてはトてばトノ差別ハ其將來辭ノ應ズル

ト否ラザルトニ因テモ亦明瞭ナリ古今集ノ「無き

ハ

テばニ非ザル故ニ下句ニ「苦まかりけり」アリ

ナラマシカトコノ言ハハ必ズカ「苦ま此古今集ノ歌ノ「

約レルてハ特リばニ係ルノミナラズ種々ノ將然ヲ

兼ル辭ニ係ル「左ノ如シ

てむ。貫之集ニ「見ても」

てめ。古今集ニ「折りてめ」

てな。萬葉集ニ「朝千の

て。新古今集ニ「志るを

又稀ニハ否不辭ノぬニ係ル「アリ

後撰集ニ「斯くながら散らあり世々

や

校

か

か

文

や

や

と

こ

な

後附 加腫

かも腫

反辞

や断

やも断

と

こそ

なむ

此類ノてヲ若シ「てあら」ノ約ナラズトセバ一々古書ニ徴シテ其辞ヲ説キ試ミヨ自ラ理會スル所アルナル可シ

作用ノ連用ヲ
と連用

戀と繁みと
其所も飽にと

此とハてノ轉音ニテ其兼ル作用ノ活辞ニてト同ク現在ノ時ヲ見ス者一ス

過去辞

過去辞ハ「讀みき」「習ひけり」「讀みこき」「習ひにり

リ「前」きけりにきにけりノ如ク作用ノ活辞ニ附テ其

業作ニ過去ノ時ヲ見スニ用アル辞トス

作用ノ連用ヲ兼ク
け 將然

旅のけ長さ

此けハ來經ノ約ニテ來經ハ古事記ニ「あら萬葉集ニ「君が往きけ長くなりぬ」ノケナリ即チ年月ノ

經過ヲ云フ辞ナリ

作用ノ連用ヲ兼ク
けら 將然

所折けらむや
過にけらむや

此けらハ次ノけりけるけれト同ク來經ノ約レルけ。

夜學文典

卷下

反辭

か

か

反

や

や

を

こ

な

ノ良行ノ四段ニ係リテ働ケル辞ナレバ已ニ其事物
 ノ來經アラシト云フ辞トス故ニ「過」にけらむや
 ノ如キモ想像過去ヲ見ス者ナリ
 其例ヲ見ズ故ニ反辞ノや。説ニバテ「過」に兼ケタル者ノ外未ダ
 ナルナリト

作用連用

けり 裁断

春は立ちけり
 花は開きけり

此けりハ來經ノ約レルけ。ノ良行ノ四段ニ係リテ働
 ケル辞ニテ作用言ヲ兼レバ其活辞ニ過去ノ時ヲ見
 ス者トス

作用連用

ける 連體

老ぞ竟てける
 若かりける人

月をいでけれ
 夜を明けけれ

作用連用

けれ 已然

此けるけれモけりト同シ活用ノ辞ニテ作用言ヲ兼
 レバ其活辞ニ過去ノ時ヲ見ス者トス
 或説ニ此けらけりけるけれハ來有らぬノ約レル
 者ナリト云へり若シ然ラバ「來有」ト續タル辞
 モアルベキヲ上古ハ更ナリ中古ノ書ニ於テモ所
 見ナキノミナラズ果ノ此説ノ如クナラバリニ係

初學文典 卷下

疑辭 可連 可連 反辭 可斷 可斷 可連 可連

ケズシテ直ニケ。ヨリ他辞ニ係ケテ「け。長志」ト
云フモ尚其けハ來有ノ約レル者ナリト為スカ「長け」ト
志ノケヲ來有ノき然ル時ハ亦其辞義ハ如何ト為
トモ言ザル可ラズ然ル時ハ亦其辞義ハ如何ト為
カ決シテ為ス「能ザルベキヲ以テ其説ノ非ナル
ヲ知ル可シ

作用ノ連用
ヲ兼ク
「けむ」
截斷
連體

作用ノ連用
ヲ兼ク
「けめ」
已然

作用ノ連用
ヲ兼ク
「けま」
假體
截斷

讀み初めけむ
習ひ始めけむ
花こそ開きけめ
月こそ出でけめ
語りけま

思ひけま

思ひけま

此けむけめけまけまけま志モ上ノ來經ノ約レルけノ
將來辞ノむめまけま志ト連合シテ成タル者ナリ故
ニ其將來辞ノ接續スル為ニ此四辞ノ兼ル所ノ作用
言ハ皆其活辞ニ想像過去時ヲ見ス者トス而ノ此け
むけめけまけまニ紛ヒ易キ者アリ即チ「安をけむ」
惜志けめ「又志けま」ノけむけめけまけま其レナ
リ「安をけむ」惜志けめ「又志けま」ノハ形状

作用ノ連用
ヲ兼ク
「けま」
假體
截斷

疑辭 か疑

か疑

反辭

や断裁

やも断裁

と

こそ

なむ

第二變形ノケノ將來辭ノむめまくニ係リタル者ニ
テ全ク此ケむけめ等トハ其辭類ヲ異ニスル者ナリ

作用ノ連用
ヲ兼ク
き 截断

思はざりき
習はざりき

作用ノ連用
ヲ兼ク
志 連體

人に養れ志鳥
誰にか養れ志

作用ノ連用
ヲ兼ク
志か 截断
已然

日こそ暮れ志か
夜こそ明け志か

此き志志かハ共ニ作用言ヲ兼レバ其活辭ニ過去ノ
時ヲ見ス者トス

作用ノ連用
ヲ兼ク
に 連用

出でに志人
歸りにけり

此にハ必ズ他ノ過去辭ト連合スルヲ以テ作用言ヲ
兼レバ其活辭ニ大過去ノ時ヲ見ス者トス

作用ノ連用
ヲ兼ク
にき 截断

思ひにき
慕ひにき

作用ノ連用
ヲ兼ク
に志 連體

過ぎに志昔
我が過ぎに志

此にきに志ハ過去辭ノ相重リテ成レルナルニ因リ
其兼ル所ノ活辭ニ於テハ大過去ノ時ヲ見ス者トス

か連 かも連 又辞 や断哉 やも断哉 とこそ なむ

作用ノ連用
ヲ兼ク
ぬ 截断

學 齡は老いぬ。
學は成りぬ。

作用ノ連用
ヲ兼ク
ぬる 連體

我 ぞ老いぬる
學びぬる業

作用ノ連用
ヲ兼ク
ぬれ 已然

潮こそ満ちぬれ
船こそ出でぬれ

此ぬぬるぬれハ共ニ其兼ル作用ノ活辞ニ過去時ヲ見ス者トス

思ひ初めてき
頼み初めてき

作用ノ連用
ヲ兼ク
てき 截断

作用ノ連用
ヲ兼ク
てき 連體

我が思ひてき
頼みてき人

此てきて志ハ共ニ其兼ル作用ノ活辞ニ大過去時ヲ見ス者トス

作用ノ連用
ヲ兼ク
たら 將然

待らたらむ
來たらま志

此たらハ次ノたりたる等ト同ク「てあ」ノ約レル
たノ良行ノ四段ニ働ケル辞ニテ其事物ノ然カ在テ
有ラン「フ云フ辞トス故ニ「待らたらむ」來たら
ま志」ノ如キモ多ク想像過去ヲ示ス者ナリ

夜學文典 卷下 友と誘はむ 人に語りむ

用ノ活辞ニ附テ其業作ニ未來ノ時ヲ見スニ用フル者

トス

作用ノ將然
ヲ兼ク
む
連截假體

友と誘はむ
人に語りむ

此むハ其兼ル所ノ作用ノ活辞ニ未來ノ時ヲ見ス者

作用ノ將然
ヲ兼ク
め
已然

風こそ吹かめ
花こそ散らめ

此めハむノ轉音ニテ用フル云ハハ如キヲ轉ジ又兩辞ノハどハどハも如ニテ兼ル其兼ル所ノ作用ノ活辞ニ未來ノ

作用ノ連用
ヲ兼ク
つ
截断

春も過去つ
秋も暮れつ
折りつる紅葉
誰が挿えつる

作用ノ連用
ヲ兼ク
つれ
已然

我こそ聞きつれ
我こそ言ひつれ

此つつるつれハ共ニ其兼ル作用ノ活辞ニ過去ノ時ヲ見ス者トス

將來辞

將來辞ハ「教まへむ」「習はまゑノむまゑノ如ク作

疑辭 か 疑 かも 疑 又 辭 や 辭 かも 疑 かも 疑

用ノ活辭ニ附テ其業作ニ未來ノ時ヲ見スニ用フル者トス

作用ノ將然ヲ兼ク **む** 連載假體

友と誘はむ。 人に語りむ。

此むハ其兼ル所ノ作用ノ活辭ニ未來ノ時ヲ見ス者トス

作用ノ將然ヲ兼ク **め** 已然

風こそ吹かめ。 花こそ散らめ。

此めハむノ轉音ニテ用フル云キハベキニ轉ジ又ノ兩辭ノハドハドヲもコニ轉兼ル片其兼ル所ノ作用ノ活辭ニ未來ノ

時ヲ見ス者トス

作用ノ將然ヲ兼ク **も** 截断

今は如何に為も。 音めみえ泣かぬ。 兼た折らぬ。 遊び暮らさぬ。

此もハめト同ジク此ハ轉音也古言ニ用ヌ又同ジク古言ニ於テハ代用ス而ノ共ニ其兼ル所ノ作用ノ活辭ニ未來ノ時ヲ見ス者トス

作用ノ將然ヲ兼ク **ま** 假體

聞かま欲ま。 言はま欲ま。

夜學文典 卷下 疑辭 か 曉 かも 曉 反 辭 や 斷 截 やも 斷 截 と こそ なむ

此ま。ハむ。め。も。ト同ジク。麻行ノ將來ヲ云フ一個ノ辭
ニテ。ミ。ナ。ラ。ズ。め。も。元。真。集。ニ。ト。云。フ。ハ。特。リ。通。音。ニ。因。ル。
去。シ。ト。ア。リ。テ。其。餘。王。欲。去。シ。身。の。憂。き。事。も。傳。へ。ハ。ル。
は。ま。し。欲。ト。去。レ。問。ハ。其。玉。餘。王。欲。去。シ。身。の。憂。き。事。も。傳。へ。ハ。ル。
か。同。シ。ケ。レ。バ。ナ。リ。而。シ。テ。人。類。ノ。如。ク。聞。カ。義。全。ク。去。シ。テ。言。
状。變。格。ニ。働。ケ。ル。ニ。テ。リ。而。シ。テ。ハ。次。ノ。作。用。ハ。變。格。ニ。移。テ。成。
ナ。ル。者。其。兼。所。ノ。作。用。ノ。活。辭。ニ。未。來。ノ。時。ヲ。見。ス。者。
ト。ス。

作用ノ將然
ヲ兼ク
ま
截假連用
新

作用ノ將然
ヲ兼ク
ま
截假連用
新

荒れまじくも惜ま
見まじくも欲まき
問はまじくも
聞かまじくも

此ま。く。ま。ま。ハ。上。ノ。ま。ノ。形。状。變。格。ニ。係。リ。テ。其。活。用。ヲ
為。シ。タ。ル。辭。ニ。テ。む。ト。同。ジ。ク。其。兼。所。ノ。作。用。ノ。活。辭
ニ。於。テ。ハ。未。來。ノ。時。ヲ。見。ス。者。ト。ス。

作用ノ將然
ヲ兼ク
ま
截假連用
新

言はませば
在らませば

此ま。せ。ば。モ。上。ノ。ま。ノ。作。用。變。格。ノ。為。ニ。係。リ。為。ヨ。リ。ば。
一。種。ニ。係。レ。ル。辭。ニ。テ。係。リ。セ。ハ。ハ。知。シ。ノ。作。用。變。格。ノ。為。ニ。
接。辞。ニ。係。レ。ル。辭。ニ。テ。係。リ。セ。ハ。ハ。知。シ。ノ。作。用。變。格。ノ。為。ニ。
以。テ。言。ハ。マ。セ。バ。ハ。知。シ。ノ。作。用。變。格。ノ。為。ニ。
ニ。聞。エ。テ。必。ズ。下。句。ニ。マ。マ。等。ノ。將。來。辭。ア。リ。テ。應。ズ。ル。意。
者。ト。其。兼。所。ノ。作。用。ノ。活。辭。ニ。未。來。ノ。時。ヲ。見。ス。者。ト
ス。

作用連用ヲ
な 自然
な まで

花開きをば見む
實を結びなま

此なハ過去辞ノぬノ働ケル辞ニテ格ハ本以テ作用變
ぬれト活用スル辞ニテ其ハ將然ノ格ニ係レバ過
辞中ニ収メにぬるぬれハ將然ノ格ニ非ザレバ過
去辞中次ノなむなめ等ハ皆此なニむぬ。將來等ノ結
合セシニ成ル故ニ常ノむぬ等ヨリモ一步深ク將來
ニ進メルヲ猶過去ニ大過去アルガ如シ而ノ將來ト
過去トハ固ヨリ相反スト雖モ其相距ルヲ愈遠キハ
ハ却テ復タ遙ニ相通フ理アルヲ以テ今此理ヲ開合
音ト合音トハ其輕重固ヨリ相反テ却テ親ク相通
フ

シガ如過去辞ノけむト將來辞ノなむト花は開きけむ
過去辞ノけむト將來辞ノなむト花は開きけむ
鬚トシテ相似タルカ如シ又此なハ否不辭ノぬでニ
係ルヲアリ左ノ如シ
なぬ。後撰集ニ「道知らずてやみやは去刻
ぬ逢ふ阪の関のあなは海といふ
なぬ。古今集「みかかる我身をうらと
るく知らぬばやかれまて登の足た中く
なぬ。なでハ活辞ノ時ヲ見スニハ非ザレバなノ否不
辞ニ係ルハ僅ニ此二辞ノミナルヲ以テ姑ク此ニ収

ム

作用連用
兼ク
なむ
裁斷
連體

去來宿りなむ
去來遊びなむ

此なむハ上ノなニむ。將來ノ添ヘル辞ニテ作用言ヲ
兼レバ其活辞ニむニ係ルヨリモ尚深キ未來ノ時ヲ
見ス者トス而ノ此なむニ紛ヒ易キ者アリ即チ命令
辞ノなむニテ「宿らなむ」「遊ばなむ」ノなむナリ
然レハ命令辞ノハ將然ヲ兼ル格ニテ將來辞ノハ連
用ヲ兼ル格ナレバ其同辞タルヲ以テ紛フルヲ勿レ

作用連用
兼ク
なむ
裁斷
連體

今日こそ出きなむ

なま
假體
連體

明日こそ往きなむ
風吹きなま
花散りなま

此なめなまも上ノなニめ。將來或ハなまノ添テ成
レル辞ニテ其兼ル所ノ作用ノ活辞ニ於テハ單ニめ
ままニ係ルヨリモ尚深キ未來ノ時ヲ見ス者トス
作用連用
兼ク
なむ
將然

學びなむ
習ひなむ

深キ未來ノ時ヲ見ス者トス
否不辭
「見ぞ」「聞かぞ」「言はぞ」「語らぞ」「をぞ」
ノ如ク作用ノ活辭ニ附テ其業作ノ否不ヲ見スニ用フ
ル辭トス

深キ未來ノ時ヲ見ス者トス
否不辭
「見ぞ」「聞かぞ」「言はぞ」「語らぞ」「をぞ」
ノ如ク作用ノ活辭ニ附テ其業作ノ否不ヲ見スニ用フ
ル辭トス

作用、將然
兼ク
假體用
截斷

人も來ぞ
我也往ぞ

此をハ稀ニ嘆辭ノかもニ係ルヲアレバ
萬葉集ニ「風吹かぞ」
連體ノ格ヲ有テル如シト雖モ普通ノ例トハ為ス可
ラズ又一種接辭ノばニ係テは萬葉集ニ「戀ハト云

フ「アルノ以テ將然ノ格ヲモ有テリト觀ル者アラ
ン然レバニ係ルぞハ此をニ非ズシテ「むあら」
ノ約レル者ニテ其例ハ形一ニ變形ニ同ジ
者アル「現在辭」ノて「ば」ニ係テはト云フニ同ジ
故ニ「あらば」ハ「あらむあらば」ノ意
萬葉集中
「人酒にみまむ」
「酒壺に成り」
「住まむば」
「ハ」
「住まむ」
「酒にみまむ」
「酒壺に成り」
「住まむば」
「ハ」
「住まむ」
「酒にみまむ」
「酒壺に成り」
「住まむば」
「ハ」
「住まむ」

作用、將然
兼ク
假體用
截斷

拂はざらむ
外らざらむ

疑辭 か疑 かも疑 天辭 や新載 やも新載 と こそ なむ

作用ノ將然
ヲ兼ク
ぞり
假體
連體

作用ノ將然
ヲ兼ク
ぞり
假體
連體

此 ぞりぞりぞるハ「むあ」ノ約レルぞ。ノ良行ノ四

段ニ働ケル辭ニテ其兼ル作用ノ活辭ニ於テ業作ノ

然カアラザルヲ見ス者トス

作用ノ將然
ヲ兼ク
ざれ
已然
命令

鶯こそ鳴ざれ
花は散らざれ

此 ざれモ「むあ」ノ約レルぞ。ノ良行ノ四段ニ働ケ

ル辭ニテ其兼ル作用ノ活辭ニ於テ業作ノ然カアラ
ザルヲ見ス而ノざれハ四段ノ第四音ニ係ルヲ以テ
又命令ヲ示ス

作用ノ將然
ヲ兼ク
ぞ
假體
連體

作用ノ將然
ヲ兼ク
ぬ
連體

作用ノ將然
ヲ兼ク
ぬ
已然

作用ノ將然
ヲ兼ク
で
連用

我は欺かぞ。
人は誘はぞ。
誰か知らぬ。
馴れぬ作業。
花こそ開かぬ。
色こそ見えぬ。
曇りぞ零る

疑辭

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

此。之。の。の。で。ハ。皆。其。兼。ル。作。用。ノ。活。辞。ニ。業。竹。ノ。然。カ。ア
ラ。ザ。ル。ヲ。見。ス。者。ト。ス

作用ヲ將然
ヲ兼ク

以連用

飽^アかに。と
言へば得^エに。言へば得^エ
「飽カズ
言ハバ得
言ハバ得

此。に。ハ。上。ノ。ぞ。ノ。轉。音。ニ。テ。現。在。辞。ノ。て。ノ。轉。音。ナル。と。
ニ。係。ル。キ。ぞ。ヲ。に。ニ。轉。ジ。テ。用。フル。古。言。ノ。一。格。ナ。リ。故
ニ。其。否。不。ヲ。見。ス。モ。亦。ぞ。ニ。同。ジ

疑 辭

疑 辭 ハ 「誰れ」「如何」「人」や「來る」「我」や「往く」「如何」

疑訝ヲ示スニ用フル辞トス而ノ此辞ハ上ヲ兼ケ下ニ

接グベキ格ヲ有ツ者ト虚體言ノ如ク其活用無キ者ト

ノ二類アリ今先ツ活用無キ辞類ヲ舉グ

いか

いつ

いつら

いづれ

いく

たれ

たが

たに

上下ニ関係ノ格ヲ有ツ疑辭ハ其數十一個ニテ左ニ示

ス如シ

實體虚體代名ト作用ノ
連用假體已然トヲ兼ク

か連用

實體虚體代名及ニ形状ノ假體
ト作用ノ格ヲ連體トヲ兼ク

か 裁断

今^イか^カ開^カくら^カむ
今^イか^カ吹^カくら^カむ

零^レる^ルは^ハ時^シ雨^レか^カ

か 連 かも 連 又 職 かも 職 こと こと

實體虚體代名ト作用ノ
連用假體已然トヲ兼ク

かも 連用

實體虚體代名及形状ノ假體
ト作用形状ノ連體トヲ兼ク

かも 截断

かハ本ト一個ノ辞ナレド兼ル辞ノ異ナルニ因リ其

格ノ連用ト截断トニ變ズルヲ以テ各別ニ之ヲ擧ゲ

かもや。やも。ノ如キモ皆此例ニ準フ而ノ連用ノかハ

嘆辞ノやニ係テかやト云フアルハ小大君集ニ春かけて來まマ

鳥ト別カ見ミ玉ミ葉キ集ト假體ヲ兼タルヲ以テナリ截断

照テるは紅葉カ

獨トリかも寐ネむ

雪キかも零レる

人見ヒトけむかも

零ルは花ハかも

各種ノ體言ト作用形状ノ連用
連體及ト作用ノ已然トヲ兼ク

や 連用

作用形状ノ
截断ヲ兼ク

や 截断

各種ノ體言ト作用形状ノ連用
連體及ト作用ノ已然トヲ兼ク

や 連用

作用形状ノ
截断ヲ兼ク

や 截断

かハ本ト一個ノ辞ナレド兼ル辞ノ異ナルニ因リ其格ノ連用ト截断トニ變ズルヲ以テ各別ニ之ヲ擧ゲ

かもや。やも。ノ如キモ皆此例ニ準フ而ノ連用ノかハ

嘆辞ノやニ係テかやト云フアルハ小大君集ニ春かけて來まマ

鳥ト別カ見ミ玉ミ葉キ集ト假體ヲ兼タルヲ以テナリ截断

去年コとや言イはむ

今年コとや言イはむ

見ミゆや見ミぬや

有アりや無ナまや

花ハとや見ミむ

雪ユキとや見ミむ

嬉ウレシまや

悲カナシまや

此やモ假體ヲ兼タル一かニ同ジモ連用ノヤハ裁斷ヲ

ニ係ル一アリ千五百番歌合ニ一谷隠れ木の葉が下の埋れ水はほれはやらむ音づれも為ぬしノ如ク然

レバ更ニ裁斷ノヤハラハハ揚グマシキニ似タリト雖モ却

テ裁斷ノヤハラハハ揚グマシキニ似タリト雖モ却

なぞ 連用 假體

各種體言ト作用形ノ
裁斷連體ト兼ク

なぞ 連用 假體

なぞ 連用 假體

各種體言ト作用形ノ
裁斷連體ト兼ク

なぞ 連用 假體

なぞ 連用 假體

遙けきやなぞ
寂寥きやなぞ

なぞ か 答むらむ

なぞ お 思ひけむ

いか い 言はむ

いか い 為よま

此などヲ體言ノ尾ニ附レバ複數ヲ見ヌモ疑辭ニシ

テ明ニ其一物一事ヲ指示セザルヲ以テナリ又いか
ハ上ノいかニ指示辭ノ如ク添ヒタル者ナリ

反辞

反辞ハ「來べき春かは」「香やは隠るる」ノ如ク動作
ノ意ヲ其裏ニ反スニ用フ而メ此辭ハ本ト疑辭ト同辭
タリト雖モ疑辭ハ其用法ニ因テ作業ニ反動ヲ見ス
アルヲ以テ更ニ茲ニ再出シテ反辞ノ名ヲ命ズ

か連用

か裁斷

誰か 誰 願はぬ
誰か 誰 願はぬ
誰か 誰 願はぬ

戀 戀 ありぬか
戀 戀 ありぬか
戀 戀 ありぬか

かも 連用

かも 截断

かは 連用

かは 截断

や 連用

思ひ かけ 去 思 ハ 懸	慕 ざ ら め か は 慕 ハ 懸 意 有	戀 ざ ら め か は 戀 ハ 懸 意 有	誰 か は 願 は ぬ 誰 ノ モ 願 意	誰 か も 仰 が ぬ 誰 ノ モ 仰 意	慕 む あ ら め か 慕 ハ 懸 意 有	誰 か も 仰 が ぬ 誰 ノ モ 仰 意	誰 か も 願 は ぬ 誰 ノ モ 願 意	慕 む あ ら め か 慕 ハ 懸 意 有
------------------------------	-----------------------------------------------------	-----------------------------------------------------	-----------------------------------------------------	-----------------------------------------------------	-----------------------------------------------------	-----------------------------------------------------	-----------------------------------------------------	-----------------------------------------------------

や 截断

やも 連用

やも 截断

やは 連用

やは 截断

花 と 見 ま 去 や は 花 ハ 見	惜 く や は あ ら ぬ 惜 ノ ク 有	思 ひ や は か け 去 思 ハ 懸	月 と は 見 め や も 月 ハ 見	花 と 見 ま 去 や も 花 ハ 見	惜 く や も あ ら ぬ 惜 ノ ク 有	思 ひ や も か け 去 思 ハ 懸	月 と は 見 め や 。 月 ハ 見	花 と 見 ま 去 や 。 花 ハ 見	惜 く や 。あ ら ぬ 惜 ノ ク 有
------------------------------------------------	-----------------------------------------------------	------------------------------------------------	------------------------------------------------	------------------------------------------------	-----------------------------------------------------	------------------------------------------------	------------------------------------------------	------------------------------------------------	-------------------------------------------------

月とは見ゆやは「月トハ見
ズノ意

兩 辞

兩辞ハ「友と讀む」「友も習ふ」「行きながら語る」「語
りつゝ行く」ノともながらつゝノ如ク二人ノ作業ヲ
一辞ニ示シ或ハ二個ノ作業ヲ一辞ニ見スニ用フル辞
トス

各種ノ體言ト作用形状
ノ連用連體トヲ兼ク
① 連用
假體

作用ノ連用
ヲ兼ク
② 連用
假體

彼も學べり
我も學ばむ
見つゝ我來ぬ
聞つゝぞ來ぬ

此つゝハ過去辞ノつゝノ二個重リテ成レル辞過
つゝノ辞
活用ト為リスナリ故ニ「見つゝ來ぬ」ハ「見つゝ
來ぬ」ノ意ナリ

各種ノ體言ト作用形状
ノ連用連體トヲ兼ク
① 連用
假體

樂まと思はむ
燃ると減ると

此とニ「とも」ト云フ意ノとアリ堀川院後百首ニ
「画にかくと筆も及ばず」画ニカク
モ及バズノ意蜻蛉日記
ニ「穗に出でたりとかひやまからむ」穂ニ
出デタ
カ意レ而ノ此とハ截断ヲ兼ル格ナレ彼此相對ス
ル與字ノ意ニ用フル片ハ連體ヲ兼ク拾遺集ニ
ビ物

と思ふか疾く明けぬると遅く暮るると山嶺後拾
 遺集ニ出づるとも見え足引の山の岑
 上月哉又稀ニハ彼此相對セザルニモ用フルモア
 レ正續日本紀ニ燃る率流止し一般ノ例トハ為スコ
 ラズ又強ク云フ片ニ用フル「吹きと吹く」零りと
 零る」ノ如キトハ「吹き」零り」ノ連用ヲ兼タル
 ニハ非ズシテ其假體ヲ兼タル者ナリ

作用、截断
ヲ兼ク
とも
假體
連用

暮るとも往かむ
明くとも去まほ

此ともハ截断ヲ兼ル格ナルニ體言ヲ兼タルニ似タ
 ル者アリ日本紀ニ「萬豆麻樹ハ神とも嬉れまじ然レ
源氏玉葛ニ「萬豆麻樹ハ神とも嬉れまじ」

凡其ともハトニ嘆辞ノモノ添レルニテ此雖字ノ意

分量ノともトハ異ナレバ同辞タルヲ以テ紛フルト勿レ

分量 作用、連體
ヲ兼ク
ばへ
假體
連用 風吹くなべに其事味

聲聞くなべに

各種、體言ト作用、形狀ノ
連用、連體トヲ兼ク
だに
假體
連用

曇りだに為よ
勉めだに為よ

各種、體言ト作用、形狀ノ
連用、連體トヲ兼ク
さへ
假體
連用

夜さへ懋はせ
晝さへ眠ぶる

各種、體言ト作用、形狀ノ
連用、連體トヲ兼ク
さら
假體
連用

女子さら勉たり
童子さら為ま得

此辭ハコトニシテコトノマシメノ意ナルトノ二個ノ別アリトシテソレハ各種ノ體言ト作用ノ連用トヲ兼ケテ形ノハ單辭ノ原語ト連體ト複辭トトモヲ兼ク
「ソノマシメ」ソレヲ兼ク各種ノ體言ヲ兼ク

作用ノ已然ヲ兼ク
（と）
假連體

作用ノ已然ヲ兼ク
（ども）
連用

分量辭

分量辭ハ「此れほど」「其ればかり」「如久其事物ノ分量ヲ示スニ用フル辭トス

各種ノ體言ト作用ノ連用トヲ兼ク
（ほど）
假連體

身のほど

女ながら強志
枝ながら折れ
呼べど答へど
見れど飽かど
呼べども答へど
見れども飽かど

各種ノ體言ト作用ノ連用トヲ兼ク
（のみ）
假連體

各種ノ體言ト作用ノ連用トヲ兼ク
（まで）
假連體

此までハ古クハ截斷ヲモ兼タレ
此の例トハ為ス可ラス
是ればかりなり
今夜ばかり往む

此辭ハ「のみ」「まで」ノ意ニ云フ三個ノ別アリトシテソレハ各種ノ體言ト作用ノ連用トヲ兼ケテ形ノハ單辭ノ原語ト連體ト複辭トトモヲ兼ク
（ばかり）
假連體

虚體中三つ云フ類ノ
（つ）
假連體

二つ

用フル辞トス

作用/裁断
ヲ兼ク
連體

神ぞ知るらむ
紅葉為ぬらむ

作用/裁断
ヲ兼ク
已然

今こそ晴るらめ
今こそ零るらめ

作用/裁断
ヲ兼ク
連體

雪は来たり
雪は来たり

作用/裁断
ヲ兼ク
連用

花は開くめり
月も照るめり

作用/裁断
ヲ兼ク
連體

風を吹くめり
露を置くめり

作用/裁断
ヲ兼ク
已然

露を置くめり
汝こそ往くめり
彼こそ去ぬめり

此めりめるめれヲ「みえ」ノ約レルめノ良行ノ四
段ニ働ケル者ナリト云フ説アリ若シ此説ノ如クナ
ラバめらトモ云フベキ辞ノアルベキヲ活語指南ニ
ト舉タリ辞古來其辞ナキハ「みえ」ノ約ナラザル明
徴ナル可シ然レバ此めりハ將來辞ノめノ良行ノリ
るれニ係レルナラン而メ良行ノラニ係ラザル者ハ
らハ將然ノ格ニテめモ亦將來辞タレバ二個ノ將來

辭ヲ相重ヌベキ理ナキニ因ルナル可シ猶此辭ハ大
文典ニ於テ
兼集ニ
詳論ス又ぬれヲ自己ノ作業ニ附タルモアレ比
兼集ニ
一足引の山のかけは去ふみの猶他ノ作業ノ及達
リ今日こそ峰の花は折るぬれレ
スルニ因テ然ル者ナレバ他ヲ想像スル辞義ニ於テ
異ナル一無シ

作用ノ將然
ヲ兼ク
至志 裁断

敢へ至志志

作用ノ將然
ヲ兼ク
至志志 連體

得至志志

此二辭ハ續日本紀ノ詔詞ニ見エテニ續日本紀ノ詔詞

字破又ハ散末至志志ハ將然ノ至志ノ否不辭ノ志
之時此為至志
ニ係レル者ニテ至志志ハ至志志ノ形状變格ニ働
ケル者ナリ至志志ハ至志志ノ形状變格ニ働
ケル者ナリ至志志ノ如キハ此辭ノ約リテ成レル者
ナリ然レ比其兼ル所ノ格ノ變ルハ至志志ハ將然ヲ
兼已ニ一個ノ辭ト成レル上ハ縱へ約タル辭ル
至其格ノ變ル可キハ自然ノ理ニテ恠ム可キニハア
ラザルナリ譬ハ義ニシテ其タ兼ル所ノ格ヨリ清
濁ノ變ル如シ生

作用ノ將然
ヲ兼ク
至志 裁断

為至志得至志

堪へ得ま志

勉むま志く見ゆ
勵むま志く思ふ

讀み得ま志きぞ
書き得ま志きぞ

作用ノ裁断
ヲ兼ク
[ま志] 連用

作用ノ裁断
ヲ兼ク
[ま志] 連體

此三辞ハ上ノま志ま志ま志ノ約レル辞ニテま志
ま志ま志ま志ト同ク作用言ヲ兼レバ其活辞ニ皆他ノ
事物ヲ想像セル不切實ナル作用ヲ見ス者トス

決定辞

決定辞ハ「^ハ褒むべき事^ト」^カ感むべき志^{ナリ}「ノ如ク

活辞ニ見ル、時ハ未來ニナリ或ハ想像ヲ呼ブニ似テ
決定ノ義ニ乏シト雖モ然レバ其未來ニナリ想像ニ似
ル所ノ動作モ遂ニ然ラザルハ能ハザル事理ナルハ作
業ニ先テ已ニ疾ク決定セルヲ以テ又「往くべま」「聽
くべま」「ノ如ク命令ヲモ示シ得ル者ナリ故ニ辞義ヲ
説キ來レバ將來辞ニモ収ム可ラズ想像辞ニモ入ル可
ラザルヲ以テ姑ク此名ヲ命ジテ一辞ニ置ク

作用ノ裁断
ヲ兼ク
[べら] 假體

作用ノ裁断
ヲ兼ク
[べら] 連用

聞きぬべらなり
知りぬべらなり
堪ふべら思ふ

作用ノ截断
ベ志 截断

作用ノ截断
べき 連體

作用ノ截断
べみ 連用

此辞ハベト云フ原語ノ形状變格ニ働ケル者ニテトベ
云フ一辞ノ証ハ未ダ見出ズ推スモ形状ニ活用スル
辞類ハ皆其原語アルヲ以テ推スモ形状ニ活用スル
ナザルべらノラハ助辞ノラニテ假體ノ格ナレバ現在

忍ぶべく見ゆ

告げバ悦ぶべ志
語らバ驚くべ志

今ぞ見るべき
今ぞ聞くべき

開くべみ
散るべみ

辞ニ係ルナリ又べみハ形状ヨリ麻行四段ニ移レル
みニテ「寒み」「薄み」
形ニ詳ナリ化ノノみニ同ジ

比准辞ハ「彼は花のごと志」「此は雪のごと志」ノ如ク
此事物ヲ彼事物ニ準ル業作ヲ示スニ用フル辞トス

作用ノ截断
ごと 假體

作用ノ截断
ごとく 連用

作用ノ截断
ごとく 截断

春のごと長閑志
秋のごと寂寥志

珠のごとく瑩く
夢のごとく覺ゆ

月光は晝のごと志

作用形状ノ
連體ヲ兼ク
ごとき
連體

助 辞

助辞ハ「絶」の関守セキキハ「花と去。見れば」ノい。去ノ如ク
其句ノ助ニ用フルノミニテ意義ナキ辞トス然レモ次
ノ句頭接辞ニ収タル發語ニ類セル者トハ異ニシテ其
上下ノ兼接ニ於ルハ全ク他ノ接辞ニ同ジ

落葉は雨のごとき
雪のごとき
霧
烟のごとき

實體虚體代名ト形
状ノ連體ト兼ク
實體虚體代名ト作用ノ
假體連體ト兼ク
連體
連體
家なる妹ハ
花待つ間

○る 假體
連體

○ら 假體
連體

夜の間ろ。
悲きろ哉。
子とら。
麻草ら。

此三辞ハ上古ノ語法ニ在ル者ニシテ中古以來用フ
ルヲナシ而シテ此ろハ指示辞ノなもヲ兼テなもろト
云ヘルトアリ 萬葉集ニ「思
ほまなもろ」

實體虚體代名ト作用ノ假體連用
連體ト形状ノ連用ト兼ク
○去 連用

寒く去。在れば
人を見れば

此去ハ指示辞ノのニ係ルトアレバ萬葉集ニ「誰
優

初學文典 卷下

「思へり去く。去ノ去ハ助辞ナリ。萬葉集ニ「吾妹
 故ニ面影に見ゆ。除テモ在リテ此去ハ即チ助辞ノ去ナリ
 去クヲ助辞ト為シテ見ス辞ヘリタルヲ以テ「タリ然ル氏
 ハ其去ハ過去ノ時ヲ見ス辞タルヲ以テ「タリ曾テ吾妹
 子ガ思ヘリシ事ノ面影ニ見ユルト云フ意ニ落テ
 今ハ已ニ思ガハル義トナレバ萬葉ノ歌ノ意トハ大ニ
 異ナルヲ味知ルヘシ

實體虚體
 つ 連體

天つ神
 國つ社

此つハ指示辞ノのニ通フ辞ナレバ其意義ナキヲ以
 去姑夕助辞ニ収ム
 近世ノ語格書ハ中ニ此助辞ハ「花を去見れば」

ノ去「雪去もど零る」ノ去も「見つゝと行む」
 ノをノ五辞ニ作業ヲ強ク云フ義アリ、説ル者ア
 全ク抑助辞トハ辞句ハ助ニ用ヒテ之ヲ除クモ其義
 ヲ失ウ「無キ是レ助辞ノ通例ニシテ古書ニ載ル
 所皆然ラザルナシ故ニ「花を去見れば」「雪去も
 を零る」ノ如キ去もヲ除クモ其意義ヲ害スル
 下ナシ然ニ両辞ノトノ作用ノ假體ヲ兼テ「零リ
 と零る」「行きて行く」ノトノ如キハ其作業ヲ強
 ク云フニ用フル辞ナルヲ以テ之ヲ除ク「能ハズ
 是レ其助辞ト助辞ニ非ザルトノ明徴ナリ

初學文典 卷下

句頭接辞

句頭接辞ハ兼ル辞ナクシテ直ニ句頭ニ見ル、辞類ノ
 総稱ナク而ム此辞トシテ「往く」「た忘る」「いたく如
 ク發語ニ用ヒテ意義ナキ者ト「まなはら讀む」「まこ
 ぶる寒去」人まなはらをこぶる人如ク體言ノ形ヲ成
 セル者ト人ニ種アリ其發語ニ用フル者ハ左ニ出スガ
 如シト雖モ體言ノ形ヲ成セル者ハ辞數頗ル夥多ナレ
 バ今其一ニヲ舉テ例ヲ示ス

體言ノ形ヲ成セル者
此辭ナク格ハ連用假體
 連體ナリ然レモ各其
 體言ノ形ヲ成セル者

み

おほみ

まなはら

まこぶる

まからく

此みおほみハ句頭ニ置テ其物或ハ其事ヲ崇敬スル
 ニ用フ舉ルハ常ニ御ノ字ヲ用フル辭ニテ次ニ而ノおほ
 みハ大御ノ義ナルヲ中古以來ハ音便ニ因テ常ニお
 ほんト呼ブガノ條ニ説ヘリ例ハ音便

發語ニ用フル者

發語ニ用フル者ハ其數九個ニシテ其中ハかたまノ
 四辭ハ多クハ古言ニ在ル者トス但シおノ一辭ハ中
 ルベシ事ア

連用

向ふ

夜學文典 卷一

た 連用

い。行く
た。忘る
た。速み

ま 連用

ま。幸く
ま。夜中

み 連用

み。雪
み。空

さ 連用

さ。夜更方
さ。夜更

か 連用

か。易志

か。黒き髪

そ 連用

そ。馴る
そ。馴松

と 連用

と。田
と。簾

け 連用

け。怖る
け。怖る

一種接辞

一種接辞ハ上ニ舉ル所ノ各種ノ接辞中ニ入レ難キ辞類ニ命ゼシ名ナリ即チ「壻がぬ」「后がぬ」「田舎より

「京都から」ノがねよりからノ類ヲ云フ

作用將然已然ト指示
辭ノトヲ兼ク
假體用

習はば成む
呼ばば答ふ

此ばハ將然已然トヲ兼ル格ナルニ指示辭ノ實ハ清音
ノハナレバ姑ク舊説ニ因テ表ニハナリモ嘆辭ノカ
兼クベキ状ニ掲タリ尚大文典ニ詳ナリモ散ラズ
ヲ兼テカバト云フハ後撰集ニ山盛りに散ラズ
らま去リ古今集ニ唐土も夢に見まかノ下ニ然
ば近かりき思はぬ中ぞ遙けかりりるしか
ら然れト云フ辭ノアルベキヲ省ケルナリト然
過去辭トノ兼差異アルニ將來辭ト例ヘバ「散りなま志
か然らば」兼將來辭ノナリト見志か然れば」辭過
去

ルカヲ兼リタノ如シ尚此例ハか又兩辭ノどもニ係テ
かどかどト云フニ同ジハ古今集ニ終ハ往ノ道と
日とは思はざり袖と問はば答へむトアハカカカ
春風は濡れに去袖と問はば答へむトアハカカカ
レバト然れト云フ省ケル者ナリ因云此ばノ不不辭ノ
ねヲ兼タルねハト云フ辭ハぬにノ意ニ聞ユルハ常
ナレバ新古今集ニ「原に沫雪どふる」トアルト曇ら
にト云ハ「意ナリぬばトぬにト通フノ三ナラズばノ
已然ヲ兼タル者ト指示辭ノにノ連體ヲ兼タル者ト
ハ多クハ相通フナリ」古今集ニ「五月南の物思ひ居
貫之集ニ「此唐衣新まはハ」年交れば人ハ斯く聞
貫之集ニ「此唐衣新まはハ」年交れば人ハ斯く聞

舊りモさりけれし。此一年を類ナリハ

此辭ハ自於因ノ意ニ去テ二個ノ別アリ。自於ノ意ニ去テ二個ノ別アリ。自於ノ意ニ去テ二個ノ別アリ。

より 連用 假體

田舎より來たり

白晝より明也

雪によりて寒也

我心から為る作業

習ふからに為る得

子ゆゑに思ふ

是ゆゑに他ふ

語り継ぐがね

人も見るがに

歸り來るがに

學びぬかま

愛無まかま

心有りげ

物思ひげ

各種ノ體言ト作用形状ノ連體トヲ兼クテ

ゆゑ 連用 假體

實體虚體ト作用ノ截斷連體トヲ兼ク

がね 假體

實體虚體ト作用ノ截斷連體トヲ兼ク

がに 連用 假體

作用形状ノ截斷ヲ兼ク

かま 截斷

作用ノ連用ト形状ノ單辭人原語複辭人志ヲ兼ク

け 假體

此げハ形状單辭ニ入レタルゲナレド作用ノ連用ヲ

モ兼ルヲ以テ更ニ此辭中ニ収ムル此作用ノ連用心ヲ兼

ニ因リハ物思ヒシガ者ナルヲ以テ或ハ作用ヲ兼ケ通或

ハ形状ナリ

崇敬辞

崇敬辞ハ「讀みたまふ」「習ひたまふ」「教へまゐらま
 「聞江まゐらま」ノたまふまゐらまノ如ク作用ノ活
 辞ニ附テ其業作ニ敬意ヲ加フル辞トス而シテ他ノ業作
 ニ附ル者ト已ノ業作ニ附ル者ト自他ノ業作ニ兼涉ス
 ル者トノ三種アリ本ト此辞ハ作用ノ活辞ヨリ來テ普
 通ノ接辞トハ自ラ異ナリト雖モ其崇敬ニ用ヒントス
 ルキハ他ノ活辞ニ属スルニ非ザレバ見ル、一能ハザ
 ル辞類ニ係ルヲ以テ今此名ヲ命ジテ接辞ノ中ニ収ム

作用ノ連用
 兼テ
 活辞
 手
 四段

御坐
 至
 在

立出
 至
 在

此まをハ作用ノ四段言ニテ「あり」「をり」ノ義ナ
 ルヲ以テ他ノ為ス業作ニ附テ呼ブキハ其業作ヲ崇
 敬スル意ヲ見ス者トス此辞ハ「あり」「をり」ノ活
 タリト雖モ他ノ辞尾ヲ兼ルキハ一種ノ崇敬辞ニ變
 ズ故リ此まをヲ重テ尾ヲ兼ルキハ一種ノ崇敬辞ニ變
 居リト云フ作業ヲ敬シテ呼ブ義ニ變スルハ其在リ

作用ノ連用
 兼テ
 活辞
 手
 四段

習ひたまふ
 學ひたまふ

此たまふモまをト同ジク作用ノ四段言ニテ物ヲ賜
 フ義ノ「たまふ」ナルヲ以テ他ノ為ス業作ニ附テ

呼ブ片ハ其業作ヲ崇敬スル意ヲ見ス者トス此辭モ物ヲ賜
ヲ義ニ用フル片ハ普通ノ活辭タリト雖モ他ノ辭尾
ヲ兼ル片ハ一種ノ崇敬辭ニ變ズルト雖モ同ジ

作用連用
ヲ義ク
まつる
活辭

仕へまつる
抱きまつる

此まつるモ作用ノ四段言ニテ物ヲ獻ル義ノ「まつ

る」ナルヲ以テ自他ノ作業ニ附テ呼ブ片ハ其作業

ヲ受ル者ニ對シテ崇敬スル意ヲ見ス者トス此辭モ物ヲ獻

尾ヲ義ニ用フル片ハ一種ノ普通ノ活辭ニ變ズルト雖モ他ノ辭

作用連用
ヲ義ク
たてまつる
活辭

傳きたてまつる
伴ひたてまつる

此たてまつるモまつると同ジク作用ノ四段言ニテ

物ヲ獻ル義ノ「たてまつる」ナルヲ自他ノ作業ニ

附テ呼ブ片ハ其業作ヲ受ル者ニ對シテ崇敬スル意

ヲ見ス者トス此辭モ物ヲ獻ル義ニ用フル片ハ普通

ハ一種ノ崇敬辭ニ變ズルト雖モ他ノ辭尾ヲ兼ル片

作用連用
ヲ義ク
まつる
活辭

送りまつる
迎へまつる

此まおらるハ作用ノ下二段言ニテ物ヲ進ラスル義

ノ「まおらる」ナルヲ以テ自他ノ作業ニ附テ呼ブ

片ハ其作業ヲ受ル者ニ對シテ崇敬スル意ヲ見ス者

トス 此辞モ物ヲ進ラスル義ニ用フル片ハ普通ノ活
辞ニ變ズルコト雖モ他ノ辞尾ヲ兼ル片ハ一種ノ崇敬

作用ノ連用
はべる 四段 活辞

抱きはべる
負ひはべる

此はべるハ作用ノ四段言ニテ侍候ノ義ハ侍候ノ義
在リ居リノ「はべる」ナルヲ以テ自己ノ業作ニ附
テ呼ブ片ハ其業作ヲ受ル者ニ對シテ崇敬スル意ヲ
見ス者トス 此辞モ侍候ノ義ニ用フル片ハ普通ノ活
ルノ崇敬辞ニ變ズルコト雖モ他ノ辞尾ヲ兼ル片ハ一種
作用ノ連用
たまふ 下二段 活辞
我が思ひたまふ

我が聞きたまふ

此たまふハ作用ノ下二段言ニテ自己ノ作業ニ附テ
呼ブ片ハ其作業ヲ受ル者ニ對シテ崇敬ノ意ヲ見ス
者トス而シテ此辞ハ「見る」「聞く」「思ふ」ノ三個ノ

動作ニ附テ呼ブ例トス

三品辞ノ格ト性質トハ上條ニ於テ已ニ論ジ畢レリト雖
モ其相綴合シ相連續シテ文章ヲ成ス法ヲ熟知スルニ非
ザレバ我心意中ニ存在スル所ノ論說技術願望好欲等凡
百ノ思念ヲ記シテ之ヲ他人ニ告知スルコト能ハズ夫レ文
章ハ今古雅俗ノ體アリト雖干之ヲ要スルニ一ニ我思念

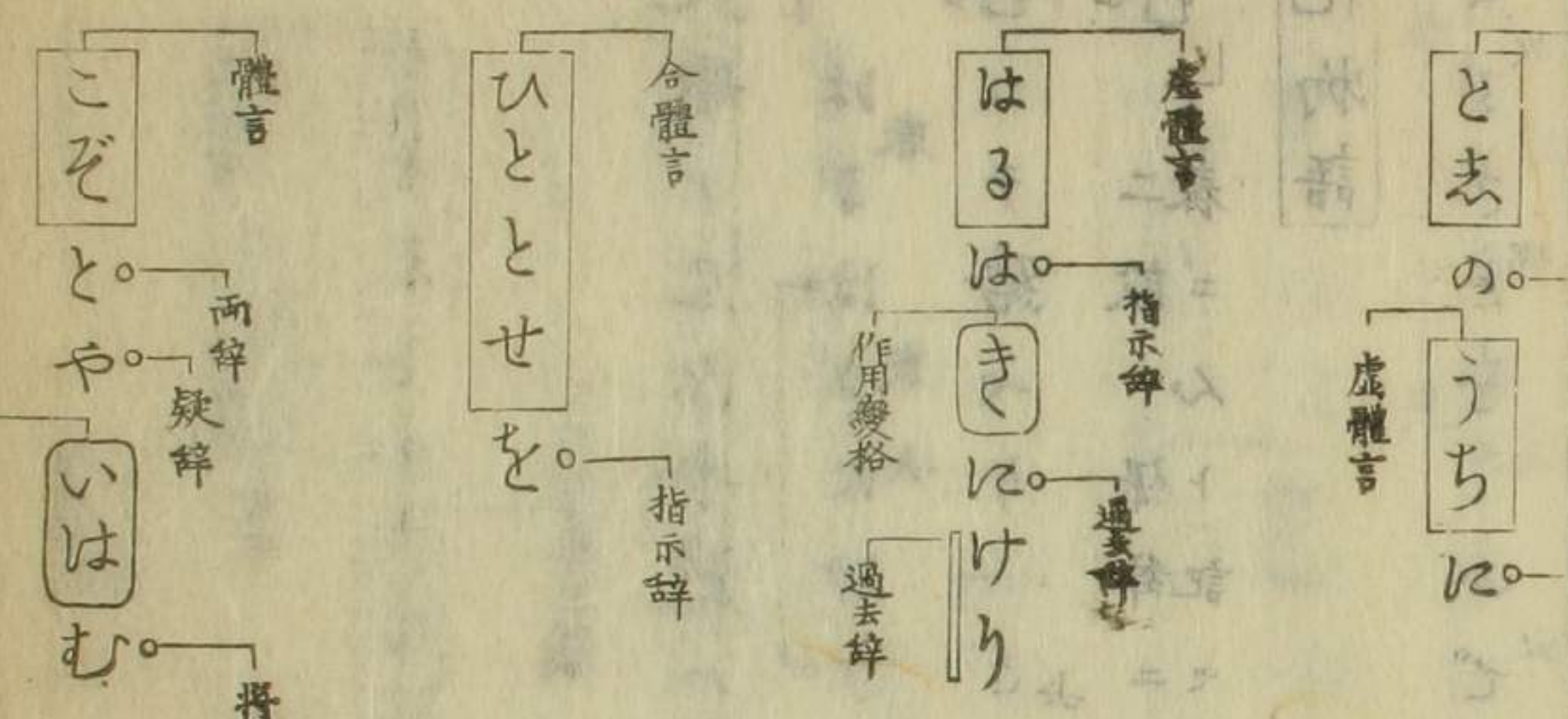
ヲ他人ニ配與スル媒介者ニ用フルニ過ザルナリ而ノ同
ク媒介ニ用フル文章ニ於テ雅文ノ俗文ニ優リ今文ノ古
文ニ及ザル者ハ蓋其辞格語法ニ明ナラズシテ意義ヲ全
達スルヲ能ハザルニ因ラザルナシ故ニ辞句綴属ノ法ノ
如キハ之ヲ大文典ニ詳悉スベシト雖モ今此篇ヲ終ルニ
際シ一二ノ古歌ヲ解剖シ試ニ先ヅ語脉ヲ示ス

古今集

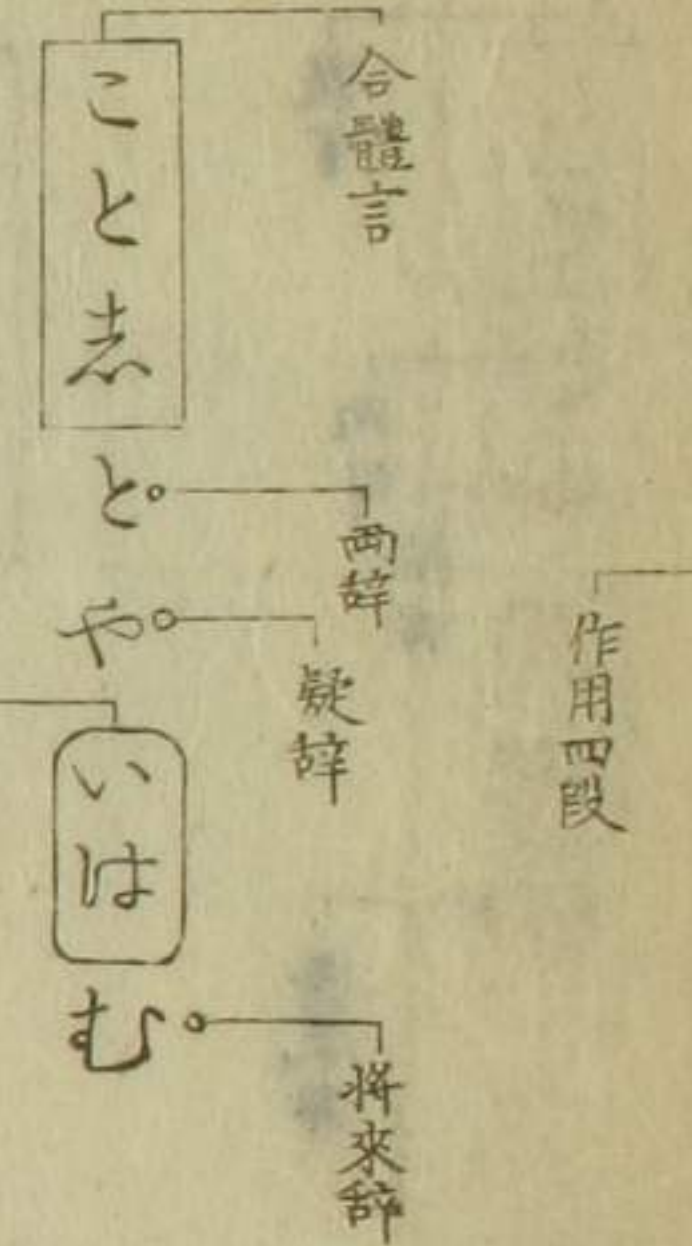
とまのうちに
はるはきにけり
ひととせを
いはむ

「虚體言」
「指示辞」
「指示辞」
のハ體言ヲ兼テ體言ニ

榮花林語



續キトハ體言ヲ兼テ用言ニ
句ノキト云フ作用言ニ
リ
はハ體言ヲ兼テ用言ニ
川ト云フ連用言ニ
ケリハト云フ連用言ニ
レタテ切
をハ體言ヲ兼テ下ノ句ノ
いはむト云フ作用言ニ
リケ
トハ體言ヲ兼テヤト云
フ連用言ニ續キヤハト
ト云フ連用言ニ
はむト云フ作用言ニ續



トハハハト云フ將
然言ヲ兼テ切レタリ

とやむノ格四句ニ同ジ

此歌ノ豆尔乎波ハ第二句ハハノ係辭ヲリニテ結ビ

「はるはきけり」係一段ノ第四五句ハヤノ係辭ヲ

「ニテ結ベリ」ことをとやいはむ「こと志とやいは

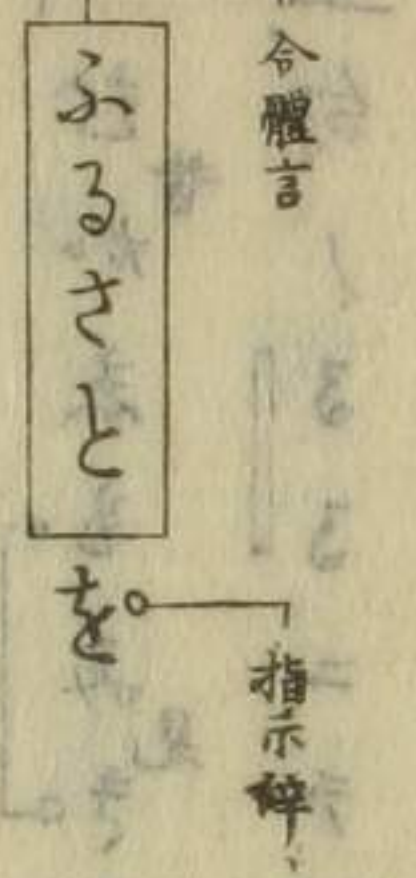
表二段ノト係辭ニテ結ル其レ辭ナリハ

榮花物語

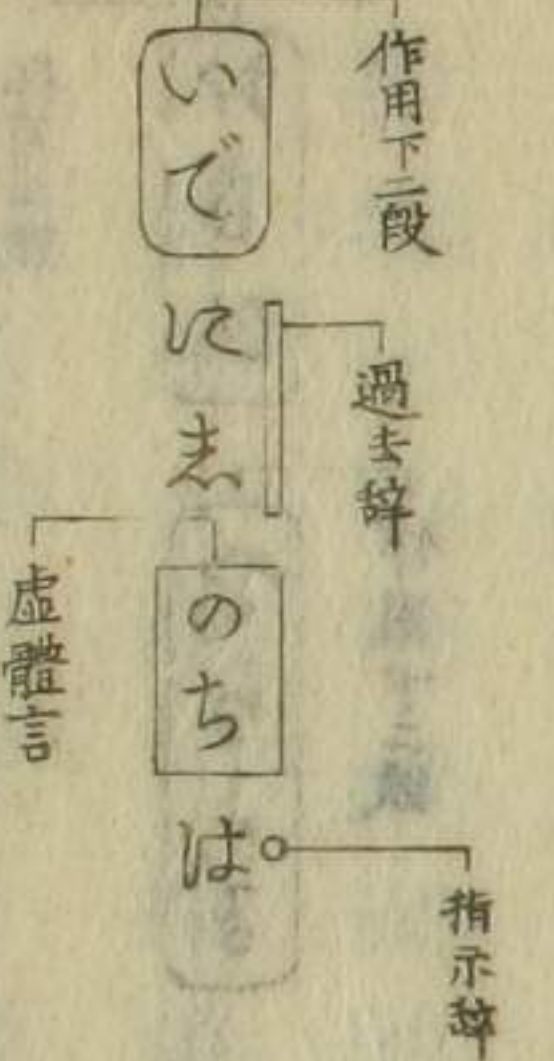
ふるさとをいでのちはつきかげど

月影

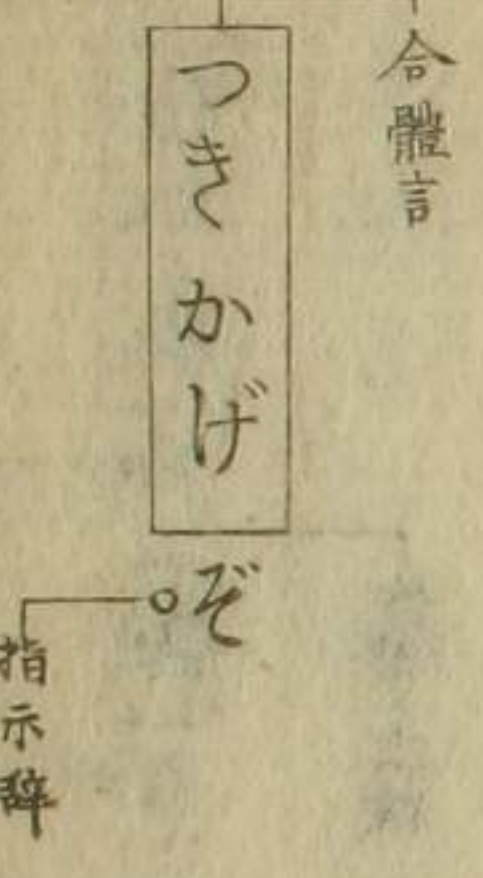
昔むかふもみきとおもひやらるる



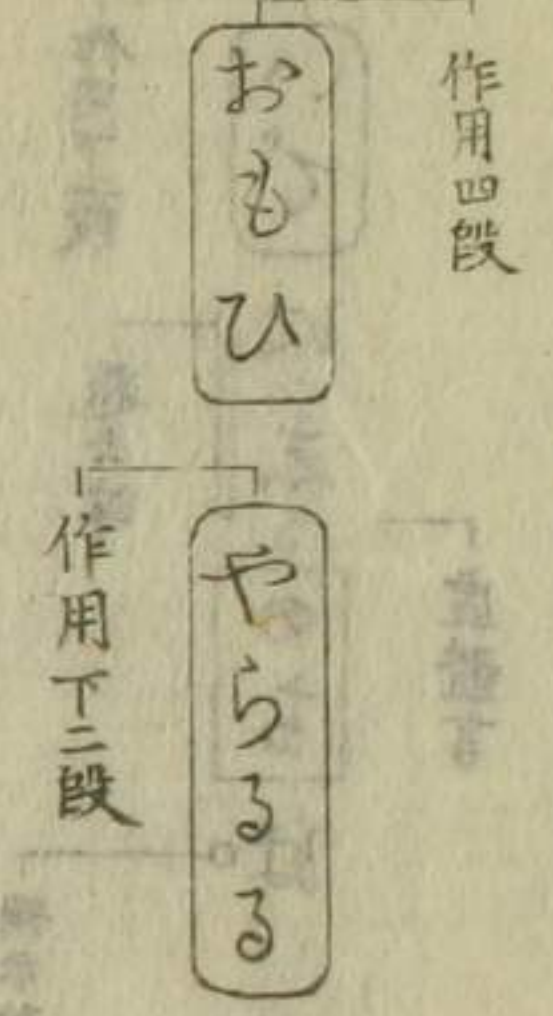
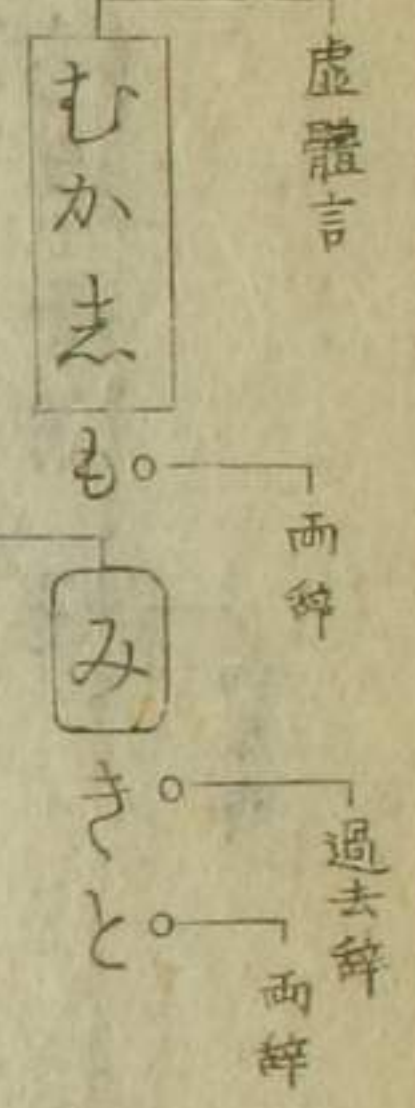
をハ體言ヲ兼テ二句ノ
いでト云フ作用言ニ續



にまハいでト云フ連用
言ヲ兼テのちト云フ體
言ニ續キハハ體言ヲ兼
テ五句ノおもひト云
フ作用言ニ續ケリ



どハ體言ヲ兼テ五句ノ
おもひト云フ作用言ニ
續ケ



此歌ノ互ル乎波ハ第四句ハもノ係辭ヲキニテ結ビ

「むかまもみきと」係一段ノ第三句ハもノ係辭ヲ第

五句ノるるニテ結ベリ「つきかげむかまもみき

とおもひやらるる」係二段ノ

もハ體言ヲ兼テみト云
フ作用言ニ續キハみ
ト云フ連用言ヲ兼テ切
レハハきト云ク截断言
ア兼テ五句ノおもひト
云フ作用言ニ續ケリ

おもひハ連用ノ格ニテ
やらるるト云フ作用言
ニ續ケリ

互ル乎波ノ調

互ル乎波ノ調ハ上句ニ属タル係辭ヲ兼テ下句ニ於テ結
 ブ法ナリ例ヘバ「花を開くなる」月こそ照るなれ」ノ
 如クぞト云フ係辭アレハ必ズるト云フ結辭ヲ用ヒこそ
 ト云フ係辭アレハ必ズれト云フ結辭ヲ用フル類トス而
 ノ結辭ニ用フル辭ハ接辭ノミニ非ズ作用言アリ形状言
 アリ皆上ノ係辭ニ從テ其辭尾ヲ變換ス乃チ「月は出づ
 ヲ月を出づる」辭ナレハ作用ノ下ニ轉ジ言ニテハト云フ係
 シノ係辭ニテ結バ第三ノ轉「花は美しくま」花を美しくまき
 美クまハ形状ノ復辭ト云フ係辭ナレハ第三ノ
 轉ジノまハ形状ノ復辭ト云フ係辭ナレハ第三ノ

之ヲ結ブニ截断格 作用言。形ノ辞ヲ用ヒ 第二段ノ係辞何ハ之ヲ結ブニ連體格 作用言。形ノ辞ヲ用ヒ 第三段ノ係辞ハ之ヲ結ブニ已然格 作用言。形ノ辞ヲ用フ而ノ第一 一段ハ輕ク第二段ハ重ク第三段ハ最モ重ケレバ係辞ノ相重ナレル者ハ其重ニ從テ結ブ然レモ係辞ナレバ其相重ナル片ハ各別ニ今先ノ係辞トナリテ見ル、所ノ接辞ハ何等ノ種類ヨリ出ヅルカラ左ニ示ス

- 徒 はものぞや何こそノ無キ者ヲ云フ
- は 指示辞ノハニテ連用格ヲ有ツ
- も 両辞ノもニテ連用格ヲ有ツ

の 指示辞ノのニテ同云フ連用格ヲ有ツ

ぞ 指示辞ノぞニテ連用格ヲ有ツ

や 疑辞ノ連用格ヲ有ツ

何 疑辞ノなにニテいかいつめられいづら

こそ 指示辞ノこそニテ連用格ヲ有ツ

此八個ノ係辞ノ上句ニ在ル片ハ其結ニ用ヒタル辞ハ総テ切ル、ヲ以テ下句ニ連續スルノ能ハズ故ニ再ビ之ヲ連續セント欲スルニハ必ズ切ル、辞ヲ兼ル所ノ接辞ヲ用ヒテ然リ後ニ下句ノ詞ヲ綴ル可シ左ニ舉ル所ノ例ハ

即チ切レシヲ兼タル形ナリ

月光寒^{ツキカガサマ}去^{サマ}・・・と見れば云々

鴈^{カガリ}は鳴きにき^ナ・・・と語り云々

夜^ヨも明け^{アケ}去^{サマ}・・・と思ふに云々

友^{トモ}の來^キるなる^{ナリ}・・・と聞くに云々

空^{ソラ}を時雨^{トキアメ}る^ル・・・と見る間に云々

今^{イマ}や晴^{ハレ}れん^ン・・・と躊躇^{チウヂウ}ふに云々

いかにか為^ナま去^{サマ}・・・と考ふるに云々

雪^{ユキ}こそ零^コる^ル去^{サマ}・・・と見居^{ミイ}たる間に云々

八個ノ係辞ヲ結^{ムス}グベキ辞ヲ集^ムテ左ノ表ヲ作^ルル木居翁ニハノ

係辞ニ因テ結ビ辞ノ轉變スルヲ二轉三轉ト稱シク然
 レ係辞ノ結ビ辞ノ如キモ徒ハ係辞ニ因テ轉變スルヲ無ク然
 嘆^{トキ}辞^ジノカ^カノ係辞^ジハ結^ムバキモ徒^ハハ係辞^ジノ如ク然
 何^{ナニ}ノ係辞^ジヲ三^{サン}段^{ダン}ニ分^クツチ
 重^{オモシ}ニ因^ユテ係辞^ジヲ三^{サン}段^{ダン}ニ分^クツチ
 結^{ムス}辞^ジモ亦^モ從^ユテ三^{サン}段^{ダン}ニ分^クツチ

互尔乎波ノ表

一假二段三段ノ係辞ヲ結^{ムス}グ辞ハ各其欄内ニ記ス而
 ノ志^シき^キけ^ケれ^レう^ウう^ウれ^レノ如^カク一^{ヒト}辞^ジノ轉變^{テンペン}ニテ一段
 ヨリ三段迄ノ結^{ムス}辞^ジトナル者^{モノ}アリ或^シハ然^カラザル者^{モノ}アリ
 リ故^ユニ一^{ヒト}辞^ジノ轉變^{テンペン}一^{ヒト}テ三段ノ結^{ムス}トナル者^{モノ}ハ第一段
 ノ上^ノニ於^テ其^ノ辞^ジノ出^デ所^ヲ示^シ否^ラザル者^{モノ}ハ結^{ムス}辞^ジト
 ナル段^{ダン}毎^ヘニ於^テ其^ノ例^ヲ示^ス

接辞 辞 想象	接辞 辞 過去	接辞 辞 過去	接辞 辞 現在	作用格 四段長 行再轉 第二變
めり	けり	たり	なり	り
断截	断截	断截	断截	断截
吹くめり 雲あり 言ふめり 聞くめり	開きけり 散りけり 入りけり 出けり	明けたり 暮れたり 見たり 聞きたり	往きなり 來きなり 照るなり 住みなり	有りり 習へり 居り
める	ける	たる	なる	る
體連	體連	體連	體連	體連
ふくめる ふるめる いふめる きくめる	さきける ちりける いりける いでける	あけたる くれたる みたる ききたる	ゆくなる くるなる ふるなる とびなる	あるる なると さるる
めれ	けれ	たれ	なれ	れ
然已	然已	然已	然已	然已
ふくめれ ふるめれ いふめれ きくめれ	さきけれ ちりけれ いりけれ いでけれ	あけたれ くれたれ みたれ ききたれ	ゆくなれ くるなれ ふるなれ とびなれ	あられ なられ さられ

五十七

接辞 辞 否不	接辞 辞 否不	接辞 辞 過去	形状 複單 複辞	段一第
志	む	き	志	徒ほも
断截	断截	断截	断截	辞係
失せ志 解け志 減け志 燃け志	失せむ 解けむ 減けむ 燃けむ	有りき 無きき 聞きき 知りき	深か志 浅さ志 樂の志 久さ志	
ぬ	志	き		段二第
體連	體連	體連		のそや行
うせぬ とけぬ きぬぬ もぬぬ	あう志 なかり志 ききに志 まうて志	ふかき あさき たの志 ひさまき		辞係
ぬ	志か	けれ		段三第
然已	然已	然已		る
うせぬ とけぬ きぬぬ	あう志か なかり志か ききに志か まうて志か	ふかけれ あうけれ たのけれ ひさまけれ		辞係

作用 活四 辭段	作用 下上 二二 段段	作用 下上 二二 段段	作用 下上 二二 段段	作用 下上 二二 段段
く	る	ゆ	む	ふ
断截	断截	断截	断截	断截
行飽開鳴 くくくく	忘拈懲奮 るるるる	絶消海老 ゆゆゆゆ	漆譽恨賦 むむむむ	傳加忍強 ふふふふ
作用 活四 辭段				
く	る	ゆ	む	ふ
體連	體連	體連	體連	體連
ゆあきな くくくく	わかこふ るるるる	たきくお ゆゆゆゆ	そほうこ むむむむ	つたふる ふのぶる
然已	然已	然已	然已	然已
け	れ	ゆ	む	ふ
然已	然已	然已	然已	然已
ゆあきな けけけけ	わかこふ るるるる	たきくお ゆゆゆゆ	そほうこ むむむむ	つたふる ふのぶる

接作用 辭活 過下 去二 段	接作用 辭活 過下 去二 段	作用 下上 二二 段段	作用 下上 二二 段段	作用 活下 二二 段段
ぬ	つ	そ	く	う
断截	断截	断截	断截	断截
吹零兼 きりぬぬ	見捨取落 つづつづ	瘦截為振 そそぞ	掛受來起 くくく	蹴居飢植 うううう
ぬ	つ	そ	く	う
體連	體連	體連	體連	體連
ふきぬる ふりぬる	みそはお つづつづ	やのそこ そそそ	かうくお くくく	くまうう うううう
然已	然已	然已	然已	然已
ぬ	つ	そ	く	う
然已	然已	然已	然已	然已
ふきぬる ふりぬる	みそはお つづつづ	やのそこ そそそ	かうくお くくく	くまうう うううう

作用 活四段 辞	接辞 辞将来	作用 活四段 辞	作用 活四段 辞	作用 活四段 辞
は	ん	む	ふ	っ
断截 渡残 走	断截 鳴往 見かん	断截 摘倦 汲むむむ	断截 添排 逢追 ふふふ	断截 滿待 立打 っっっ
作用 活四段 辞	接辞 辞将来	作用 活四段 辞	作用 活四段 辞	作用 活四段 辞
は	ん	む	ふ	っ
體連	體連	體連	體連	體連
わの た せ	か こ せ	な き み ゆ かん ん	み か ん ん	つ う く せ む む む む
然已	然已	然已	然已	然已
わの た せ	か こ せ	な き み ゆ かん ん	み か ん ん	つ う く せ む む む む

此つ、三結ア
ハ餘意ヲ合シテ
ナリ故ニ其聲
連用ニテ其結
辞ニ非ズ

作用 下上四段	接辞 辞将来	接辞 辞将来	接辞 辞想像	接辞 辞想像
る	ま	ま	ら	ら
断截 蹴見 釣 るるる	断截 聞言 同は まま	断截 聞言 同は まま	断截 聞言 同は まま	断截 聞言 同は まま
作用 下上四段	接辞 辞将来	接辞 辞将来	接辞 辞想像	接辞 辞想像
る	ま	ま	ら	ら
體連	體連	體連	體連	體連
けみ つち るるる	と は ま ま ま ま ま	と は ま ま ま ま ま	か く ま ま ま ま ま	か く ま ま ま ま ま
然已	然已	然已	然已	然已
けみ つち れれれ	と は ま ま ま ま ま	と は ま ま ま ま ま	か く ま ま ま ま ま	か く ま ま ま ま ま

初學文典

接辞 嘆辞 希求辞	接辞 嘆辞 命令辞	接辞 命令辞 命令辞	接辞 嘆辞 嘆辞	接辞 嘆辞 希求辞
よ	ね	よ	よ	よ
断截 勉めよ	断截 過ぎぬ	断截 習へよ	断截 勉めよ	断截 勉めよ
接辞 嘆辞	接辞 命令辞	接辞 命令辞	接辞 嘆辞	接辞 嘆辞
を	ね	よ	よ	よ
断截 渡せ	断截 過ぎぬ	断截 習へよ	断截 勉めよ	断截 勉めよ
二段係辞中 のノ結ビノ三ニ 用フ	二段係辞中 のノ結ビノ三ニ 用フ	二段係辞中 のノ結ビノ三ニ 用フ	二段係辞中 のノ結ビノ三ニ 用フ	二段係辞中 のノ結ビノ三ニ 用フ

此を三テ結ノハ
餘意ヲ含メテ
ノリ故ニ其格モ
連用ヲ真ノ結
辞ニ非ズ

接辞 指示辞 指示辞	接辞 指示辞 指示辞	接辞 指示辞 指示辞	接辞 指示辞 指示辞	接辞 指示辞 指示辞
は	は	は	は	を
断截 月は	断截 月は	断截 月は	断截 月は	用連
接辞 指示辞	接辞 指示辞	接辞 指示辞	接辞 指示辞	接辞 指示辞
は	は	は	は	を
断截 のノ結ビノ三ニ 用フ	断截 のノ結ビノ三ニ 用フ	断截 のノ結ビノ三ニ 用フ	断截 のノ結ビノ三ニ 用フ	断截 のノ結ビノ三ニ 用フ
接辞 反辞	接辞 嘆辞	接辞 嘆辞	接辞 反辞	接辞 嘆辞
か	か	か	か	を
断截	断截 月か	断截	断截	用連
二段係辞中 のノ結ビノ三ニ 用フ	二段係辞中 のノ結ビノ三ニ 用フ	二段係辞中 のノ結ビノ三ニ 用フ	二段係辞中 のノ結ビノ三ニ 用フ	二段係辞中 のノ結ビノ三ニ 用フ

接辞 疑辞 か	接辞 嘆辞 かも	接辞 嘆辞 かよ	接辞 反辞 かは	接辞 疑辞 かや
此疑辞かハ二段中 何ト云フ係辞ヲ結 ブ辞ナリ但此結辞 ニ餘意アル者トス	二段ノ係辞中 の結ビノミニ 用フ	二段ノ係辞中 の結ビノミニ 用フ	二段ノ係辞中 の結ビノミニ 用フ	二段ノ係辞中 の結ビノミニ 用フ

接辞 希求 か	接辞 希求 かも	接辞 希求 かよ	接辞 希求 かは	接辞 疑辞 かや
二段ノ何ト云フ 係辞中ノ何カ で結ビ用フ	二段ノ何ト云フ 係辞中ノ何カ で結ビ用フ	二段ノ何ト云フ 係辞中ノ何カ で結ビ用フ	二段ノ何ト云フ 係辞中ノ何カ で結ビ用フ	二段ノ係辞中 の結ビノミニ 用フ

初學文典 卷下

接辞 疑辞 いかた 断截	接辞 疑辞 なを 断截	接辞 指示辞 を、疑辞 よ 断截	接辞 指示辞 を、疑辞 や 断截 誰ぞや 我ぞや	接辞 指示辞 を、指示 は 断截 誰ぞは 我ぞは
接辞 疑辞 いかた 断截	接辞 疑辞 なを 断截	接辞 指示辞 を、疑辞 よ 断截	接辞 指示辞 を、疑辞 や 断截	接辞 指示辞 を、指示 は 断截
二段係辞中 のトヤトノ結 ビニ用フ	二段係辞中 ヤノ結ビニ用フ	二段係辞中 の結ニ用ヒ又 何係辞ヲ結フ	二段係辞中 の結ニ用ヒ又 何係辞ヲ結フ	二段係辞中 の結ニ用ヒ又 何係辞ヲ結フ

接辞 指示辞 を、疑辞 も 断截	接辞 指示 を 断截	接辞 指示辞 を、疑辞 や 断截	接辞 反辞 や 断截	接辞 疑辞 反辞 や 断截
接辞 指示辞 を、疑辞 も 断截	接辞 指示 を 断截	接辞 指示辞 を、疑辞 や 断截	接辞 反辞 や 断截	接辞 疑辞 反辞 や 断截
一段係辞中 の結ニ用ヒ又 何係辞ヲ結フ	二段係辞中 の結ニ用ヒ又 何係辞ヲ結フ	二段係辞中 の結ニ用ヒ又 何係辞ヲ結フ	二段係辞中 の結ニ用ヒ又 何係辞ヲ結フ	二段係辞中 の結ニ用ヒ又 何係辞ヲ結フ

接辞 指示 辞	接辞 禁止 辞	形状 單 複 辞	接辞 禁止 辞	接辞 指示 辞
こを	な	さ	な	こを
用連 省其終ヲ	断截	断截	断截	用連 二段中のノ係 始ヲ省ケルヲ
二段中のノ係 始ヲ省ケルヲ	二段ノ係辞中 のノ結ビノミニ 用フ	二段中のノ係 辞ヲ結ビ見る ガ終マシノ類 ニ付テ	二段ノ何ニ附テ 誰ト問フ如 ク云ハバ下ノ結 ビハ何ニ拘ラズ	二段ノ何ニ附テ 誰ト問フ如 ク云ハバ下ノ結 ビハ何ニ拘ラズ
接辞 兩 辞	接辞 兩 辞	接辞 兩 辞	接辞 兩 辞	接辞 兩 辞
も	と	と	と	と
用連	用連	用連	用連	用連
二段ノ何ニ附テ 誰ト問フ如 ク云ハバ下ノ結 ビハ何ニ拘ラズ	二段ノ何ニ附テ 誰ト問フ如 ク云ハバ下ノ結 ビハ何ニ拘ラズ	二段ノ何ニ附テ 誰ト問フ如 ク云ハバ下ノ結 ビハ何ニ拘ラズ	二段ノ何ニ附テ 誰ト問フ如 ク云ハバ下ノ結 ビハ何ニ拘ラズ	二段ノ何ニ附テ 誰ト問フ如 ク云ハバ下ノ結 ビハ何ニ拘ラズ
接辞 兩 辞	接辞 兩 辞	接辞 兩 辞	接辞 兩 辞	接辞 兩 辞
とも	に	に	に	に
用連	用連	用連	用連	用連
二段ノ何ニ附テ 誰ト問フ如 ク云ハバ下ノ結 ビハ何ニ拘ラズ	二段ノ何ニ附テ 誰ト問フ如 ク云ハバ下ノ結 ビハ何ニ拘ラズ	二段ノ何ニ附テ 誰ト問フ如 ク云ハバ下ノ結 ビハ何ニ拘ラズ	二段ノ何ニ附テ 誰ト問フ如 ク云ハバ下ノ結 ビハ何ニ拘ラズ	二段ノ何ニ附テ 誰ト問フ如 ク云ハバ下ノ結 ビハ何ニ拘ラズ

接辞 將來 辞	接辞 希求 辞	「通はく」知ら ぬふヲ伸タル	接辞 過去 辞	接辞 過去 辞
な	こそ	く	つ	ぬ
断截	断截	断截	断截	断截
二段係辞中 のノ結ビノミニ 用フ	二段係辞ノ 中ノノ結ビノミニ 用フ	二段中のノ 係辞ノ下ノ ミニ云フ	二段ノ中何ノ 結辞ニ用フル 變格ナリ	二段ノ中何ノ 結辞ニ用フル 變格ナリ
接辞 將來 辞	接辞 希求 辞	「通はく」知ら ぬふヲ伸タル	接辞 過去 辞	接辞 過去 辞
な	こそ	く	つ	ぬ
断截	断截	断截	断截	断截
二段係辞中 のノ結ビノミニ 用フ	二段係辞ノ 中ノノ結ビノミニ 用フ	二段中のノ 係辞ノ下ノ ミニ云フ	二段ノ中何ノ 結辞ニ用フル 變格ナリ	二段ノ中何ノ 結辞ニ用フル 變格ナリ
接辞 兩 辞	接辞 兩 辞	接辞 兩 辞	接辞 兩 辞	接辞 兩 辞
とも	と	と	と	と
用連	用連	用連	用連	用連
二段ノ何ニ附テ 誰ト問フ如 ク云ハバ下ノ結 ビハ何ニ拘ラズ	二段ノ何ニ附テ 誰ト問フ如 ク云ハバ下ノ結 ビハ何ニ拘ラズ	二段ノ何ニ附テ 誰ト問フ如 ク云ハバ下ノ結 ビハ何ニ拘ラズ	二段ノ何ニ附テ 誰ト問フ如 ク云ハバ下ノ結 ビハ何ニ拘ラズ	二段ノ何ニ附テ 誰ト問フ如 ク云ハバ下ノ結 ビハ何ニ拘ラズ
接辞 兩 辞	接辞 兩 辞	接辞 兩 辞	接辞 兩 辞	接辞 兩 辞
とも	と	と	と	と
用連	用連	用連	用連	用連
二段ノ何ニ附テ 誰ト問フ如 ク云ハバ下ノ結 ビハ何ニ拘ラズ	二段ノ何ニ附テ 誰ト問フ如 ク云ハバ下ノ結 ビハ何ニ拘ラズ	二段ノ何ニ附テ 誰ト問フ如 ク云ハバ下ノ結 ビハ何ニ拘ラズ	二段ノ何ニ附テ 誰ト問フ如 ク云ハバ下ノ結 ビハ何ニ拘ラズ	二段ノ何ニ附テ 誰ト問フ如 ク云ハバ下ノ結 ビハ何ニ拘ラズ

接辭 一種 接辭 一種 かゝ かゝ 一段ノ係 用フ	接辭 一種 接辭 一種 かゝ かゝ 一段ノ係 用フ
接辭 一種 接辭 一種 かゝ かゝ 一段ノ係 用フ	接辭 一種 接辭 一種 かゝ かゝ 一段ノ係 用フ
接辭 一種 接辭 一種 かゝ かゝ 一段ノ係 用フ	接辭 一種 接辭 一種 かゝ かゝ 一段ノ係 用フ
接辭 一種 接辭 一種 かゝ かゝ 一段ノ係 用フ	接辭 一種 接辭 一種 かゝ かゝ 一段ノ係 用フ

初學日本文典卷之下終

出版發兌書目並定價錄 明治十三年七月改

- 千葉師範學校書牘 山田行元著 全壹冊 定價金三十錢
- 同頭書填字書牘解 山田行元編 全壹冊 同 金廿五錢
- 改正初學地理書 山田行元編 全五冊 同 金七十錢
- 改初學地理書字引略 山田行元編 全壹冊 同 金十二錢
- 初學地理書暗射地圖 千葉師範學校編輯 附錄付 全四軸 同 金二四廿五錢
- 標註國史要略譯語 堤正勝開 齊藤徳三郎編 全壹冊 同 金十六錢
- 小學珠算五百題 後藤磯右衛門編輯 答式及七 術書十頁 全四冊 同 金五十五錢

古反丁録

出版目録

○近世遺勲高名像傳 子安信成編輯 石田漢兵衛書画 全二冊 定價金五十五錢

此書、維新前勤王ノ首唱ヲリ、高山彦九郎、蒲生君平、林子平ヲ始トシ、田島、有司、友、
殉難ノ名ナリ、現今顯官三條岩倉二公及ヒ大隈大木諸公等ノ小傳ヲ集メ、此ノ像ニ
加、且、其詩歌ヲ附シ、諸公ノ盡力遂ニ維新開化ノ今日ヲ致ス所以ノ概畧ヲ婦女子ニ
分リ易ク記載セシ小冊子ナリ、希々官私小學ノ生徒ニ一讀アラシメテ祈

○小學文例 佐次治太郎編輯 全二冊 定價金五十錢

○文章義解 編野八安編輯 全二冊 定價金五拾五錢

○文章體例 小笠原勝修著 全二冊 定價金五拾五錢

○新詩語碎金 河原英吉編輯 全五冊 定價金二十錢

○新幼學詩韻 同編 全壹冊 定價金十錢

右之書籍各地書林ニ差出シ有之候間 御最寄ニテ御購取ニテヨシ

東京書林 日本橋區横山町一丁目壹番地

出雲寺萬次郎敬白

版權免許

明治十一年二月廿六日 全 年七月出版

著者 大分縣士族 物集高見

出版人 東京府平民 出雲寺萬次郎

發賣 全 片山武兵衛

第一大區十四小區 富澤町二十七番地

第一大區十三小區 横山町二丁目一番地

第二大區一小区 三年町二番地

